

Oracle® Fusion Middleware
Oracle WebLogic Server
Application Adapters インストレーション・ガイド
12c リリース 1 (12.1.3.0.0)
部品番号 : E61974-01

2014 年 9 月

このドキュメントでは、Oracle Application Adapters for Oracle WebLogic Server のインストール方法および構成方法について説明します。

Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters インストール・ガイド, 12c
リリース 1 (12.1.3.0.0)

部品番号 : E61974-01

原本名 : Oracle Fusion Middleware Application Adapters Installation Guide for Oracle WebLogic Server 12c Release
1 (12.1.3.0.0)

原本部品番号 : E58245-01

原著者 : Stefan Kostial

原協力者 : Vikas Anand, Marian Jones, Sunil Gopal, Bo Stern

Copyright © 2001, 2014 Oracle Corporation. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
対象読者	vii
ドキュメントのアクセシビリティについて	vii
関連ドキュメント	vii
表記規則	viii
1 概要	
Oracle Fusion Middleware Application Adapter 概要	1-1
インストール・タイプ	1-2
Oracle Fusion Middleware Application Adapter のシステム要件	1-2
ハードウェア要件	1-2
サポートされるモード	1-3
ソフトウェア要件	1-4
サポートされる EIS システム	1-5
SAP R/3 (SAP JCo 3.x 使用)	1-5
PeopleSoft	1-6
Siebel	1-6
J.D. Edwards OneWorld	1-7
2 インストールと構成	
必要な Oracle パッチ	2-1
インストールの概要	2-1
Oracle Fusion Middleware Application Adapters のインストール	2-2
新規インストールの実行	2-2
複数のアダプタ・インストレーション・インスタンスのサポート	2-5
サイレント・インストールの実行	2-5
前提条件	2-5
サイレント・インストーラの使用方法	2-6
Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアップグレード	2-8
前提条件	2-8
アダプタのアップグレード	2-9
AIX プラットフォームで DB2 リポジトリを使用している場合	2-12
アプリケーション・エクスプローラの起動	2-13
Oracle WebLogic Server アダプタ・アプリケーション・エクスプローラの構成	2-14
Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine の構成の作成	2-14
Oracle WebLogic Server Adapter J2EE Connector Architecture の構成の作成	2-16

J2CA の構成とデプロイ	2-18
J2CA コネクタ・アプリケーションの設定の構成	2-18
J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理の構成	2-19
Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションの デプロイ	2-20
Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ	2-25
アプリケーション・エクスプローラを使用した J2CA 構成への接続	2-29
Business Services Engine の構成とデプロイ	2-29
Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成	2-29
Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ	2-30
アプリケーション・エクスプローラを使用した BSE 構成への接続	2-33
ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新	2-34
デプロイメント・スクリプトへのアクセス	2-35
Windows プラットフォーム	2-35
Windows 以外のプラットフォーム	2-35
デプロイメント・スクリプトの使用法	2-36
インストール後のタスク	2-42
エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのリスト	2-43
エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー	2-47
ディレクトリ構造	2-48
Oracle データベース・リポジトリの構成	2-49
DB2 データベース・リポジトリの構成	2-54
サポートされる DB2 のバージョン	2-54
使用上の留意事項	2-54
前提条件	2-54
DB2 データベース・リポジトリの作成	2-55
J2CA リポジトリの構成	2-56
BSE リポジトリの構成	2-58
Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリの構成	2-59
サポートされる MS SQL Server のバージョン	2-59
使用上の留意事項	2-59
前提条件	2-59
MS SQL Server データベース・リポジトリの作成	2-60
J2CA リポジトリの構成	2-60
BSE リポジトリの構成	2-62
Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアンインストール	2-63
サイレント・アンインストーラの使用法	2-64

A Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成

PeopleSoft のバージョンの指定	A-1
アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール	A-2
コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド	A-2
コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成	A-5
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターのインストール	A-10
PeopleTools のアップグレード	A-12

B Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成

アウトバウンドおよびインバウンド処理のための JDE.INI ファイルの変更	B-1
OneWorld イベント・リスナー	B-2
OneWorld イベント・リスナーの構成	B-2
AS/400 でのイベント・リスナーの構成	B-4
実行時の概要	B-5

索引

はじめに

Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters インストール・ガイドによる。このドキュメントでは、Oracle Application Adapters for Oracle WebLogic Server のインストール方法および構成方法について説明します。

対象読者

このドキュメントは、ERP アプリケーション・アダプタのインストールと構成を実行するシステム管理者を対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社のアクセシビリティへの取組みの詳細は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support から電子サポートにアクセスできます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> にアクセスしてください。聴覚障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> にアクセスしてください。

関連ドキュメント

詳細は、Oracle Enterprise Repository 12c リリース 1(12.1.3.0.0) ドキュメント・セットに含まれる次のドキュメントを参照してください。

- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters* ベスト・プラクティス・ガイド
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter* アップグレード・ガイド
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.0)* ユーザーズ・ガイド
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for Siebel* ユーザーズ・ガイド
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft* ユーザーズ・ガイド
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld* ユーザーズ・ガイド

- Oracle Unified Method (OUM)

Oracle Unified Method (OUM) には、その他のガバナンス情報が詳細に示されています。OUM を使用できるのは、Oracle の従業員、Oracle Partner Network の認定パートナーまたは認定アドバンテージ・パートナー、OUM カスタマ・プログラムまたは Oracle のコンサルティング・サービス・プロジェクトに参加しているクライアントです。OUM は、ソフトウェア開発および実装プロジェクトを計画、実行および制御するための、Web ベースのツールキットです。

OUM の詳細は、次の URL の OUM FAQ を参照してください。

http://my.oracle.com/portal/page/myo/ROOTCORNER/KNOWLEDGEAREAS1/BUSSINESS_PRACTICE/Methods/Learn_about_OUM.html

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字	太字は、操作に関連する GUI 要素や本文または用語集で定義されている用語を示します。
斜体	斜体の文字は、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダー変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

この章では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server 12c リリース 1(12.1.3.0.0) の概要を示します。内容は次のとおりです。

- 1.1 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapter 概要」
- 1.2 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapter のシステム要件」

注意：本文中の <ORACLE_HOME> は、12c がインストールされたホーム・ディレクトリを意味します。

本文中の <ADAPTER_HOME> は、以下を意味します。

SOA の場合：

<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters

OSB の場合：

<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters

本文中の <ORACLE11g_HOME> は、11g がインストールされたホーム・ディレクトリを意味します。

1.1 Oracle Fusion Middleware Application Adapter 概要

Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters CD を使用して、パッケージ・アプリケーション用のアダプタをインストールできます。

これらのアプリケーション・アダプタは、パッケージに含まれる様々なアプリケーション (SAP R/3 および Siebel など) と Oracle WebLogic Server を統合します。これらのアダプタは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel、および Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld です。

表 1-1 に、パッケージ・アプリケーション用のアダプタを示します。

表 1-1 Oracle Fusion Middleware パッケージ・アプリケーション用アプリケーション・アダプタ

アダプタ	説明
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld	J.D. Edwards OneWorld アプリケーションへの包括的な双方向標準接続を提供します。
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft	PeopleSoft アプリケーションへの包括的な双方向標準接続を提供します。
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel	実装のための労力を最小限に抑える固有の機能を提供して、Oracle WebLogic Server を Siebel システムと接続します。
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3	SAP R/3 システムとの接続および統合のために、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 を介して Oracle WebLogic Server を SAP R/3 システムと接続します。

1.1.1 インストール・タイプ

パッケージ・アプリケーションのアダプタは、次の形でデプロイできます。

- J2CA デプロイメント用の J2CA 1.0 リソース・アダプタおよびテスト・サブレット
- Oracle WebLogic Server 内の Web サービス・サブレット (Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) として知られる)

Oracle WebLogic Server Application Adapters をパッケージ・アプリケーション (J2CA および BSE デプロイメント) 用に構成するために、Oracle WebLogic Server Adapter アプリケーション・エクスプローラ (アプリケーション・エクスプローラ) も提供されています。

1.2 Oracle Fusion Middleware Application Adapter のシステム要件

次の各項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールするためのシステム要件について説明します。

- [1.2.1 項「ハードウェア要件」](#)
- [1.2.2 項「サポートされるモード」](#)
- [1.2.3 項「ソフトウェア要件」](#)
- [1.2.4 項「サポートされる EIS システム」](#)

1.2.1 ハードウェア要件

表 1-2 に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters がインストールされるコンピュータのハードウェア要件を示します。

表 1-2 ハードウェア要件

ハードウェア	Windows 2000	Linux	Solaris	HPUX	AIX
ディスク容量 (すべてのアダプタをインストールするための)	200MB	200MB	200MB	200MB	200MB
メモリー	1GB	1GB	1GB	1GB	1GB

1.2.2 サポートされるモード

Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされるモードを以下の項に示します。

Oracle Service-Oriented Architecture (SOA) および Oracle Business Process Management (BPM)

サポートされるモード:

- 管理対象モード

注意: Oracle Fusion Middleware アプリケーション・アダプタは、デプロイ中に管理対象サーバーにデプロイする必要があります。

- 統合サーバー・モード

注意: デフォルトでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapters はデプロイ中に統合サーバーにデプロイされます。

Oracle Service Bus (OSB)

サポートされるモード:

- 管理対象モード

注意: Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デプロイ中に管理対象サーバーにデプロイする必要があります。

- 統合サーバー・モード

注意: デフォルトでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapters はデプロイ中に統合サーバーにデプロイされます。

Oracle Service-Oriented Architecture (SOA) と Oracle Service Bus (OSB) の連携

サポートされるモード:

- 管理対象モード

注意: ■Oracle Fusion Middleware Application Adapters を SOA ディレクトリ (たとえば、<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters) にインストールするだけで、SOA と OSB を連携環境で使用できます。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デプロイ中に管理対象サーバーにデプロイする必要があります。
-
-

1.2.3 ソフトウェア要件

次の項では、Oracle Fusion Middleware アプリケーション・アダプタのソフトウェア要件について説明します。

注意： Oracle Fusion Middleware アプリケーション・アダプタでサポートされているシステムおよびプラットフォームは、個々のアダプタのレベルによって異なります。

Oracle Fusion Middleware アプリケーション・アダプタでサポートされているシステムおよびプラットフォームの詳細は、[1.2.4 項「サポートされる EIS システム」](#) 1-5 ページを参照してください。

オペレーティング・システム要件

[表 1-3](#) に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールできるコンピュータのオペレーティング・システム要件を示します。

注意： Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースの場合、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld と Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft は Windows および Oracle Enterprise Linux プラットフォームでのみ認定されています。Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースでは、これら 2 つのアダプタは他のプラットフォームでの認定やサポートは行われていません。これらのアダプタについて他のプラットフォームでのサポートが必要な場合は、Oracle カスタマ・サポートに連絡してください。

表 1-3 オペレーティング・システム要件

プラットフォーム・タイプ	プラットフォーム・リスト 64 ビット	JDK バージョン
Windows	x64 Windows 2003 with SP2/R2+	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 Windows Server 2008	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
Solaris	Oracle Solaris Sparc 9	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	Oracle Solaris Sparc 10 Update 4+	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
	Oracle Solaris Sparc 11	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
HP	PA-RISC HP UX 11i 11.23、11.31	HP JDK 1.7.0_09+(64 ビット)
	Itanium-2 HP UX 11.23、11.31	HP JDK 1.7.0_09+(64 ビット)
Linux	x64 RedHat Linux EL 4(UL7+)	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
	x64 RedHat Linux EL 5.x(UL3+)	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
	x64 SUSE10	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
	x64 Oracle Enterprise Linux 4(UL7+)	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
	x64 Oracle Enterprise Linux 5.x(UL5+)	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)
	x64 Oracle Enterprise Linux 6.x(UL1+)	■ Sun 1.7.0_55+(64 ビット)

表 1-3 オペレーティング・システム要件 (続き)

プラットフォーム・タイプ	プラットフォーム・リスト 64 ビット	JDK バージョン
AIX	IBM Power AIX 5L(5.3 ML01+)	IBM 1.7.0.10 SR2(64 ビット)
	IBM Power AIX 6.1	IBM 1.7.0.10 SR2(64 ビット)
	IBM Power AIX 7.1(TL2+)	IBM 1.7.0.10 SR2(64 ビット)

サポートされる Oracle 製品

表 1-4 に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters によってサポートされる Oracle 製品を示します。

表 1-4 サポートされる Oracle 製品

製品	コンポーネント	バージョン
Oracle SOA Suite	BPEL Process Manager、Mediator	12.1.3.0.0
Oracle BPM	BPMN	12.1.3.0.0
Oracle Service Bus	Business Services、Proxy Services	12.1.3.0.0

サポートされるデータベース・リポジトリ

表 1-5 に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters によってサポートされるデータベース・リポジトリを示します。

表 1-5 サポートされるデータベース・リポジトリ

データベース	バージョン	プラットフォーム
Oracle Database Enterprise Edition	リリース 12.1.0.1.0 製品	Windows、Solaris、HP、Linux、および AIX

1.2.4 サポートされる EIS システム

この項では、次の EIS システムでサポートされている、リリースとシステム・プラットフォームの組合せを示します。

- [SAP R/3 \(SAP JCo 3.x 使用\)](#)
- [PeopleSoft](#)
- [Siebel](#)
- [J.D. Edwards OneWorld](#)

1.2.4.1 SAP R/3 (SAP JCo 3.x 使用)

次の SAP R/3 プラットフォームは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 によってサポートされます (SAP JCo 3.x 使用)。

- SAP R/3 Enterprise 47x100
- SAP R/3 Enterprise 47x200
- mySAP ERP Central Component (ECC) 5.0(SAP NetWeaver 2004 上にデプロイされた)
- mySAP ERP Central Component (ECC) 5.0(SAP NetWeaver 2004 上にデプロイされた)
- SAP Java Connector (SAP JCo) バージョン 3.0.11

次のオペレーティング・システムは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 によってサポートされます (SAP JCo 3.x 使用)。

- Windows 64 ビット (Windows XP、Windows Vista、Windows Server 2003、および Windows Server 2008)
- Linux (Intel プロセッサのみ) - (64 ビットのみ)
- HP-UX PA-RISC - (64 ビットのみ)
- HP-UX Itanium - (64 ビットのみ)
- Solaris - (64 ビットのみ)
- AIX - (64 ビットのみ)

各オペレーティング・システムと対応するサポートされた JVM 情報の詳細は、SAP Service Marketplace の SAP ノート #1077727 を参照してください。

1.2.4.2 PeopleSoft

次の PeopleSoft プラットフォームは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft によってサポートされます。

アダプタ・プラットフォーム	PeopleSoft プラットフォーム	PeopleSoft リリース	PeopleTools リリース・レベル
表 1-3 「オペレーティング・システム要件」にリストされたプラットフォーム	Windows および Linux	8.1	8.16.03 - 8.22
		8.4	8.40.05 - 8.52

注意： Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースの場合、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft は Windows および Oracle Enterprise Linux プラットフォームでのみ認定されています。Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースでは、このアダプタは他のプラットフォームでの認定やサポートは行われていません。このアダプタについて他のプラットフォームでのサポートが必要な場合は、Oracle カスタマ・サポートに連絡してください。

1.2.4.3 Siebel

次の Siebel プラットフォームは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel によってサポートされます。

アダプタ・プラットフォーム	Siebel プラットフォーム	Siebel リリース	API
表 1-3 「オペレーティング・システム要件」にリストされたプラットフォーム	Windows	6.0.1 - 6.2	COM
	Windows	6.3 - 8.2	Java Data Bean
	Linux	6.3 - 8.2	Java Data Bean
	Solaris	6.3 - 8.2	Java Data Bean
	HP	6.3 - 8.2	Java Data Bean
	AIX	6.3 - 8.2	Java Data Bean

注意： サポートされている Siebel リリースの場合、バージョン 8.2 はパブリック・セクタ・バージョンです。

1.2.4.4 J.D. Edwards OneWorld

次の J.D. Edwards OneWorld プラットフォームは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld によってサポートされます。

アダプタ・プラットフォーム	J.D. Edwards OneWorld プラットフォーム	J.D. Edwards OneWorld 製品およびリリース
表「」にリストされたプラットフォーム	Windows および Linux	<ul style="list-style-type: none"> ■ XE (B7333) SP19 ~ SP23 ■ ERP 8.0 (B7334) ■ EnterpriseOne B9 (8.9) ■ EnterpriseOne 8.10 (Tools リリース 8.93 および 8.94) ■ EnterpriseOne 8.11 (SP1) ■ EnterpriseOne 8.12 (Tools リリース 8.96 2.0) ■ EnterpriseOne 9.0 (Tools リリース 8.98.1.3) ■ EnterpriseOne 9.1 (Tools リリース 9.1.02)

注意: Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースの場合、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld は Windows および Oracle Enterprise Linux プラットフォームでのみ認定されています。Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースでは、このアダプタは他のプラットフォームでの認定やサポートは行われていません。このアダプタについて他のプラットフォームでのサポートが必要な場合は、Oracle カスタマ・サポートに連絡してください。

インストールと構成

この章では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server 12c のインストールおよび構成の方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- 2.1 項「必要な Oracle パッチ」
- 2.2 項「インストールの概要」
- 2.3 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapters のインストール」
- 2.4 項「Oracle WebLogic Server アダプタ・アプリケーション・エクスプローラの構成」
- 2.5 項「J2CA の構成とデプロイ」
- 2.6 項「Business Services Engine の構成とデプロイ」
- 2.7 項「ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新」
- 2.8 項「インストール後のタスク」
- 2.9 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアンインストール」

2.1 必要な Oracle パッチ

Oracle 12c (12.1.3.0.0) で、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle Service Bus (sbconsole) および JDeveloper OSB プロセスが設計どおりに機能するためには、次のパッチが必要です。

OSB 12c の必須パッチ (パッチ 19224394)

12c で Oracle Fusion Middleware Application Adapters を Oracle Service Bus とともに使用する場合は、このパッチが必要です。

パッチ 19224394 は次の Oracle サポート Web サイトから入手できます。

<http://support.oracle.com>

詳細は、Oracle カスタマ・サポートにご連絡ください。

2.2 インストールの概要

12c リリース 1(12.1.3.0.0) のアプリケーション・アダプタ・インストーラは、Oracle Service-Oriented Architecture (SOA) Suite および Oracle Service Bus (OSB) に適用されます。インストールされるアプリケーション・アダプタは、Business Process Execution Language (BPEL)、メディエータ、Business Process Management (BPM) および Oracle Service Bus (OSB) コンポーネントとともに使用できます。

12c のインストーラには、Oracle Fusion Middleware Application Adapters 用にサポートされているアップグレード・オプションがあります。これにより、アダプタを PS6 から 12c にアップグレードできます。さらに、サイレント・インストーラ・オプションも用意されています。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 のインストール

12c のアプリケーション・アダプタ・インストーラを使用すると、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x) のみがインストールされます。

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 2.x) を使用している場合は、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x) にアップグレードすることをお勧めします。

2.3 Oracle Fusion Middleware Application Adapters のインストール

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server 12c をインストールする方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- [2.3.1 項「新規インストールの実行」](#)
- [2.3.2 項「複数のアダプタ・インストレーション・インスタンスのサポート」](#)
- [2.3.3 項「サイレント・インストールの実行」](#)
- [2.3.4 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアップグレード」](#)
- [2.3.5 項「アプリケーション・エクスプローラの起動」](#)

2.3.1 新規インストールの実行

Oracle Fusion Middleware Application Adapters の新規 (フレッシュ) インストールを実行するには、次の手順を実行します。

1. ターミナルを開き、システム内のインストール・ファイルがある場所へナビゲートして、プラットフォーム固有のインストーラを実行します。
 - **Windows:** `iwora12c_application-adapters_win.exe`
 - **Linux:** `iwora12c_application-adapters_linux.bin`
 - **Solaris:** `iwora12c_application-adapters_solaris.bin`
 - **HPUX:** `iwora12c_application-adapters_hpux.bin`
 - **AIX:** `iwora12c_application-adapters_aix.bin`

次の例はそれぞれ、Windows プラットフォームと Windows 以外のプラットフォームでのインストーラの実行方法を示しています。

Windows プラットフォーム：

オプション 1:

インストーラがあるフォルダにナビゲートし、`.exe` ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

オプション 2:

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダの場所にナビゲートし、`.exe` ファイルを実行します。

Windows 以外のプラットフォーム：

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダにナビゲートし、`.bin` ファイルを実行します。

導入画面が表示されます。

注意: この手順説明で使用する画像は Windows インストーラからのサンプルです。インストールの手順はどのプラットフォームでも同じです。

2. 「次へ」をクリックします。

図 2-1 のような Oracle ホーム・フォルダの選択画面が表示されます。

図 2-1 Oracle ホーム・フォルダの選択画面



3. Oracle ホームとして適切な場所を選択します。

SOA の場合:

<ORACLE_HOME>\soa

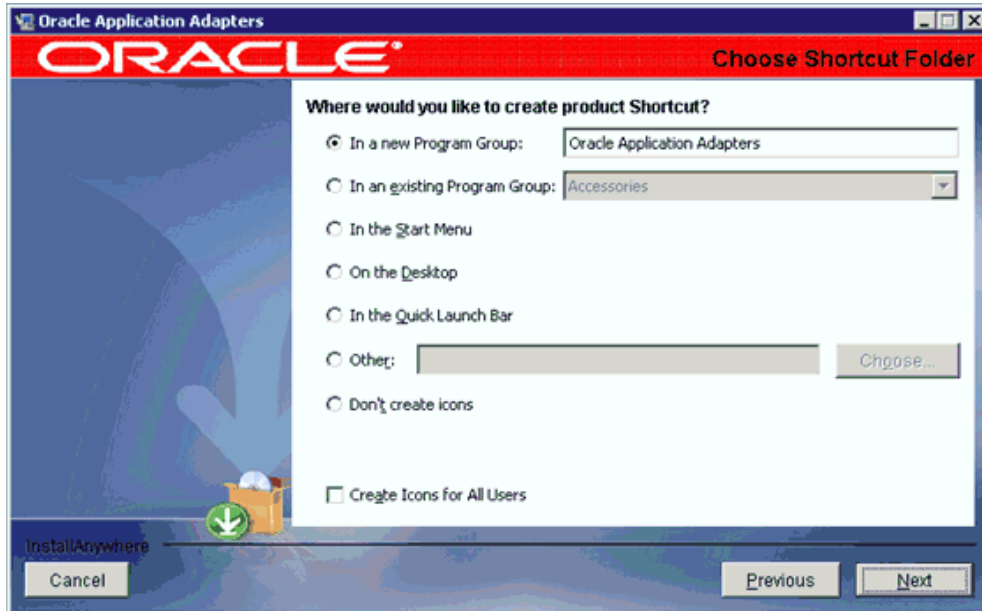
OSB の場合:

<ORACLE_HOME>\osb

4. 「次へ」をクリックします。

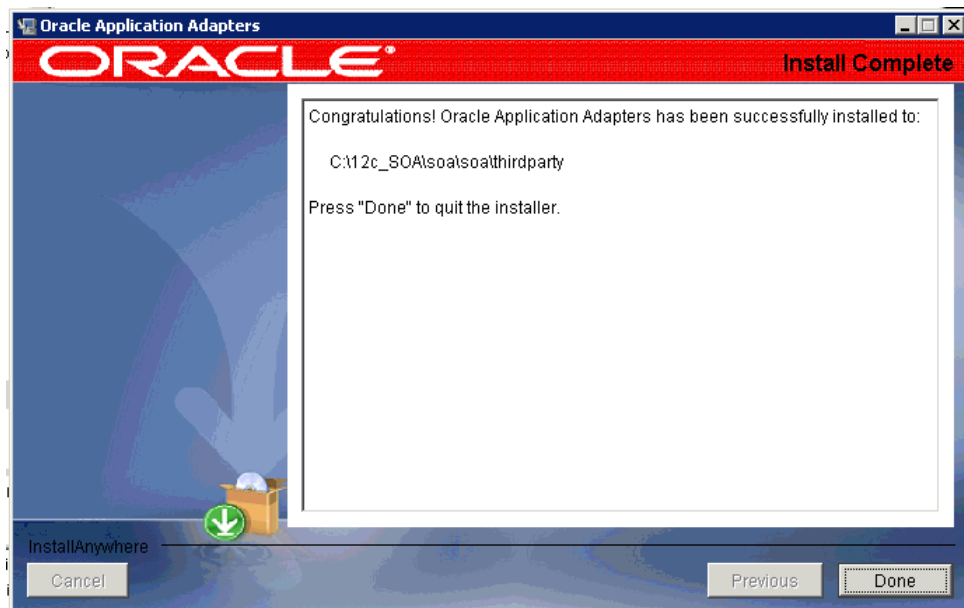
図 2-2 のような「ショートカット・フォルダの選択」画面が表示されます。

図 2-2 「ショートカット・フォルダの選択」画面



5. インストールするショートカットの場所を選択します。
このステップは Windows プラットフォームにのみ当てはまります。Windows 以外のプラットフォームではスキップされます。
6. 「次へ」をクリックします。
「インストール前のサマリー」画面が表示されます。
7. すべての情報が正しいことを確認して「インストール」をクリックします。
インストール・プロセスが開始されます。
8. インストールが完了したら、アダプタがインストールされた場所が表示されていることを確認し、図 2-3 に示すように「終了」をクリックします。

図 2-3 「インストール完了」画面



9. Oracle Fusion Middleware Application Adapters がインストールされたら、次のように適切な SOA または OSB ホーム・ディレクトリにファイルがコピーされたことを確認します。

- SOA の場合：

```
<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters
```

- OSB の場合：

```
<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters
```

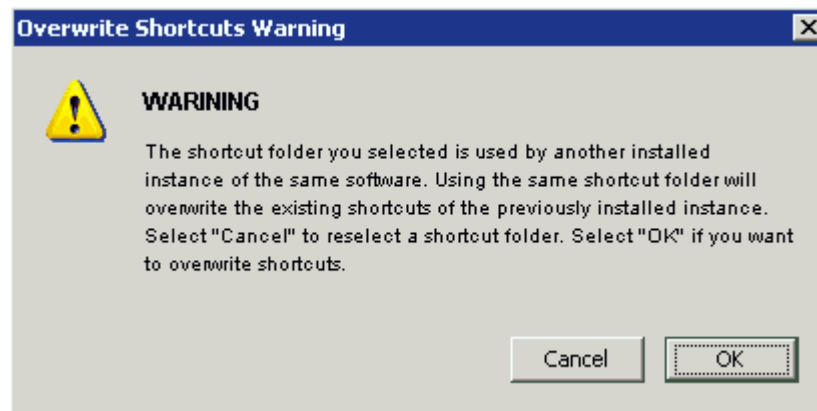
複数のアダプタを同じシステム内の別々の場所（たとえば C:\12c_SOA\soa と C:\12c_OSB\osb）にインストールする場合は、2-5 ページの 2.3.2 項「複数のアダプタ・インストール・インストレーション・インスタンスのサポート」で説明している手順に従います。それ以外の場合は 2-13 ページの 2.3.5 項「アプリケーション・エクスプローラの起動」に進みます。

2.3.2 複数のアダプタ・インストール・インストレーション・インスタンスのサポート

同一システムにアダプタ・インストール・インストレーションの複数のインスタンスをインストールする場合は、2-2 ページの 2.3.1 項「新規インストールの実行」で説明している手順を実行します。

注意： Windows プラットフォームの場合は、アダプタ・インストール・インストレーションの 2 番目のインスタンスにおいて、最初のインスタンスで使用したのとは別のショートカット・フォルダを選択します。これにより、図 2-4 のような警告メッセージが表示されるのを防ぐことができます。

図 2-4 ショートカット上書きの警告



2.3.3 サイレント・インストールの実行

この項では、サイレント・インストールの方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- 2.3.3.1 項「前提条件」
- 2.3.3.2 項「サイレント・インストーラの使用方法」

2.3.3.1 前提条件

サイレント・インストーラを使用してアダプタをアップグレードする場合に固有の前提条件を次に示します。サイレント・インストーラを使用してアダプタのフレッシュ・インストールを行う場合は、これらの前提条件は無視できます。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする前に、実行中のすべてのサーバー（管理および管理対象）を停止します。実行中のサーバーがあると、アップグレードは完了せず、警告メッセージが表示されます。

- Windows プラットフォームでインスタンスを 12c にアップグレードする前に、そのインスタンスのショートカットを手動で削除する必要があります。サイレント・インストーラは、ショートカット・リンクがどこに作成されたかを判別できない場合があるため、古いショートカットを処理できないことがあります。
- 管理対象モードで iBSE を構成した場合は、次の Stage_Folder フォルダから `ibseconfig.xml` ファイルのバックアップを作成して一時的な場所に保存する必要があります。

```
<ORACLE11g_HOME>\user_projects\domains\<domain_name>\servers\<Managed_Server_Name>\stage\ibse\ibse.war\WEB-INF
```

2.3.3.2 サイレント・インストーラの使用法

サイレント・インストーラを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールする手順:

1. Windows プラットフォームで、`silent_windows_install.properties` という名前のプロパティ・ファイルを作成します。
2. `silent_windows_install.properties` ファイルに次の内容を追加します。

```
#-----
#This is a sample silent installation property file. It contains variables that
were set by Panels, Consoles or Custom Code.
#You can change the values of the properties according to your installation
environment.
#To run silent installation, you need to pass the property file to the installer
executable like this:
# >installer.exe -f silent_install.properties

#Indicate silent mode. Do not need to use the command-line switch "-i silent"
#-----
INSTALLER_UI=silent

#Choose Oracle Home Folder
#-----
USER_ORA_HOME=C:\12c_HOME\soa

CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=1

#Choose Shortcut Folder
#-----
USER_SHORTCUTS=C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Oracle
Application Adapters
#-----
```

3. `silent_windows_install.properties` ファイルを保存します。

注意： Windows 以外のプラットフォームでは、次の内容を持つ `silent_unix_install.properties` という名前のプロパティ・ファイルを作成します。

```
#-----
#This is a sample silent installation property file. It contains
variables that were set by Panels, Consoles or Custom Code.
#You can change the values of the properties according to your
installation environment.
#To run silent installation, you need to pass the property file to the
installer executable like this:
# >installer.exe -f silent_install.properties

#Indicate silent mode. Do not need to use the command-line switch "-i
silent"
#-----
INSTALLER_UI=silent

#Choose Oracle Home Folder
#-----
USER_ORA_HOME=/12c_HOME/soa

CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=1
#-----
```

4. `#Choose Oracle Home Folder` セクションを見つけて、SOA または OSB ホーム・ディレクトリの場所を指定します。例：

```
#Choose Oracle Home Folder
#-----
USER_ORA_HOME=C:\\12c_HOME\\soa
```

5. `CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON` パラメータを見つけて、次のガイドラインに基づいて設定を構成します。

- このパラメータのデフォルト設定は次のとおりです。

```
CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=1
```

指定した SOA または OSB ホーム・ディレクトリの内容がすでにインストール済の場合、サイレント・インストーラは既存のインストールに変更を加えずに終了します。これは、ユーザーが誤って既存のインストールを上書きすることを防ぐための措置です(上書き時に警告メッセージが表示されないため)。

- 既存のインストールをアップグレードするには、このパラメータを次のように設定します。

```
CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=0
```

注意： 指定した SOA または OSB ホーム・ディレクトリに既存のインストールがない場合、`CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON` パラメータに設定された値は無視されます。サイレント・インストーラは標準インストールを実行します。

6. 必要であれば、`#Choose Shortcut Folder` セクションに変更を加えてショートカット・フォルダの場所を変更することもできます。例：

```
#Choose Shortcut Folder
#-----
```

```
USER_SHORTCUTS=C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Oracle
Application Adapters
```

注意： #Choose Shortcut Folder セクションは、Windows 以外のプラットフォームには適用されません。したがって、このセクションは非 Windows バージョンのサイレント・インストーラのプロパティ・ファイルでは使用できません。

7. `silent_windows_install.properties` ファイルを保存します。
8. `silent_windows_install.properties` ファイルが 12c インストーラと同じ場所にあることを確認します。同じ場所がない場合は、このファイルを適切な場所にコピーする必要があります。
9. コマンド・プロンプトで、12c インストーラのディレクトリへナビゲートして次のインストール・コマンドを入力します。

```
iwora12c_application-adapters_win.exe -f silent_windows_install.properties
```

`CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON` パラメータに設定された値に基づいて、アップグレード・インストールが実行されます。

サイレント・インストーラを使用してアダプタをアップグレードする場合は、2-12 ページの 2.3.4.3 項「AIX プラットフォームで DB2 リポジトリを使用している場合」で説明している手順を実行します。

2.3.4 Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアップグレード

Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、この項で説明しているように Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードできます。12c リリースをインストールする前に PS6 リリースをアンインストールする必要はありません。アダプタをアップグレードすると、アダプタのコンポーネント (jar ファイル、スクリプト、ツールなど) がインストーラによって上書きされます。ただし、以前のリリースを使用して生成された WSDL ファイルとスキーマ・ファイルは削除されません。

注意： アダプタをインストールする前に、オラクルの WebLogic Server、SOA Suite、BPM、OSB などのミドルウェア・コンポーネントを 12c リリース・レベルにアップグレードする必要があります。さらに、SOA Suite、BPM および OSB プロジェクトを、アダプタをインストールする前に 12c リリース・レベルにアップグレードする必要があります。

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- [2.3.4.1 項「前提条件」](#)
- [2.3.4.2 項「アダプタのアップグレード」](#)
- [2.3.4.3 項「AIX プラットフォームで DB2 リポジトリを使用している場合」](#)

2.3.4.1 前提条件

アップグレード・インストールの前提条件を次に示します。

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする前に、実行中のすべてのサーバー (管理および管理対象) を停止します。実行中のサーバーがあると、アップグレードは完了せず、警告メッセージが表示されます。

- Windows プラットフォームでインスタンスを 12c にアップグレードする前に、そのインスタンスのショートカットを手動で削除する必要があります。
- 管理対象モードで iBSE を構成した場合は、次の **Stage_Folder** フォルダから `ibseconfig.xml` ファイルのバックアップを作成して一時的な場所に保存する必要があります。

```
<ORACLE11g_HOME>\user_projects\domains\<domain_name>\servers\<Managed_Server_Name>\stage\ibse\ibse.war\WEB-INF
```

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする前に、既存のインストレーションのバックアップを作成する必要があります。インストーラもバックアップを作成して次の場所にコピーします。

SOA の場合：

```
<ORACLE11g_HOME>\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Old_ApplicationAdapters_Backup_Copy
```

OSB の場合：

```
<ORACLE11g_HOME>\Oracle_OSB1\3rdparty\Old_ApplicationAdapters_Backup_Copy
```

2.3.4.2 アダプタのアップグレード

Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする手順：

1. コマンド・プロンプトまたはターミナルを開き、システム内のインストール・ファイルがある場所へナビゲートして、使用しているプラットフォームに対応するインストーラを起動します。
 - **Windows:** `iwora12c_application-adapters_win.exe`
 - **Linux:** `iwora12c_application-adapters_linux.bin`
 - **Solaris:** `iwora12c_application-adapters_solaris.bin`
 - **HPUX:** `iwora12c_application-adapters_hpux.bin`
 - **AIX:** `iwora12c_application-adapters_aix.bin`

次の例はそれぞれ、Windows プラットフォームと Windows 以外のプラットフォームでのインストーラの実行方法を示しています。

Windows プラットフォーム：

オプション 1:

インストーラがあるフォルダにナビゲートし、`.exe` ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

オプション 2:

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダの場所にナビゲートし、`.exe` ファイルを実行します。

Windows 以外のプラットフォーム：

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダにナビゲートし、`.bin` ファイルを実行します。

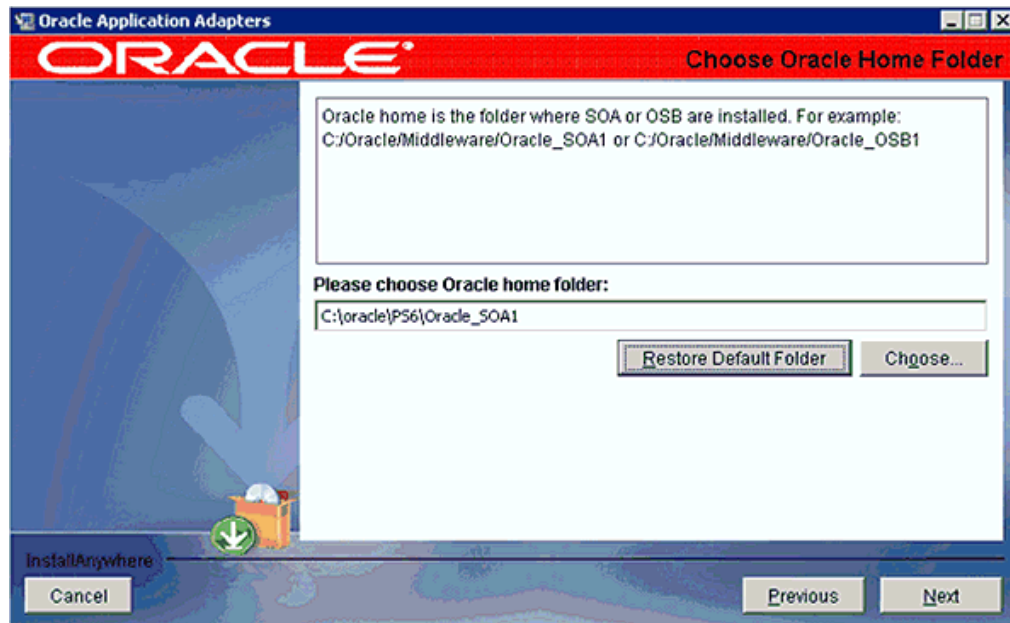
導入画面が表示されます。

注意： この手順説明で使用している画像は Windows インストーラからのサンプルです。インストールの手順はどのプラットフォームでも同じです。

2. 「次へ」をクリックします。

図 2-5 のような Oracle ホーム・フォルダの選択ペインが表示されます。

図 2-5 Oracle ホーム・フォルダの選択ペイン



3. アップグレードする Oracle ホームの場所を選択します。

SOA の場合：

<ORACLE11g_HOME>\Oracle_SOA1

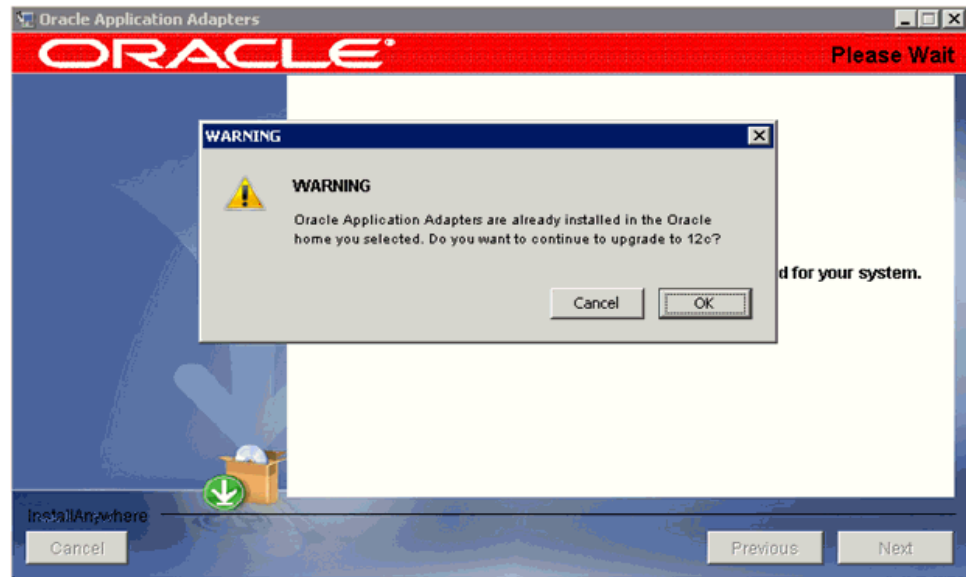
OSB の場合：

<ORACLE11g_HOME>\Oracle_OSB1

4. 「次へ」をクリックします。

図 2-6 のような警告メッセージが表示されます。

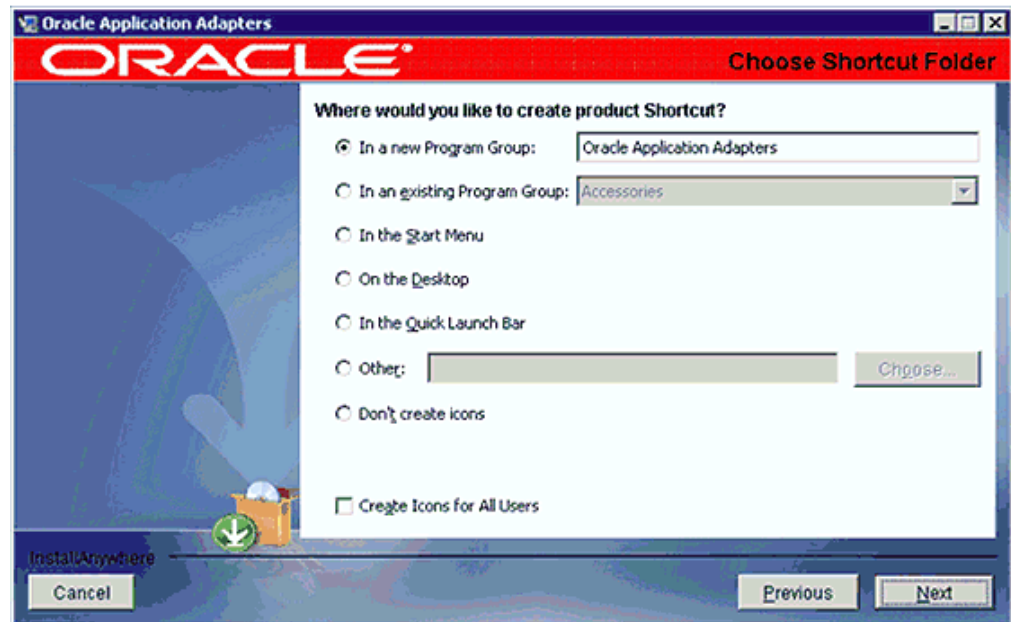
図 2-6 警告メッセージ



5. 「OK」をクリックして続行します。

☒ 2-7 のような「ショートカット・フォルダの選択」メインが表示されます。

図 2-7 「ショートカット・フォルダの選択」ペイン



注意： このステップは Windows プラットフォームにのみ当てはまります。Windows プラットフォーム以外でのアップグレードでは、このステップはスキップできます。

6. 「次へ」をクリックします。
「インストール前のサマリー」画面が表示されます。
7. すべての情報が正しいことを確認して「インストール」をクリックします。

インストール・プロセスが開始されます。既存のアダプタ・インストールの自動バックアップが作成され、アダプタがアップグレードされます。

8. インストールが完了したら、アダプタがインストールされた場所を確認し、図 2-8 に示すように「終了」をクリックします。

図 2-8 「インストール完了」ペイン



2.3.4.3 AIX プラットフォームで DB2 リポジトリを使用している場合

DB2 リポジトリを使用している AIX プラットフォームでアダプタをアップグレードした場合は、この項で説明しているように `ra.xml` ファイルに変更を加える必要があります。

次のディレクトリにある `ra.xml` までナビゲートします。

```
<ORACLE11G_HOME>\iwafjca.rar\META-INF
```

IWayRepoDriver プロパティで、デフォルトのドライバ値を DB2 ドライバ値 (`com.ibm.db2.jcc.DB2Driver`) と置き換えます。

元のバージョン:

```
<config-property-name>IWayRepoDriver</config-property-name>
<config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</config-property-value>
```

変更後のバージョン:

```
<config-property-name>IWayRepoDriver</config-property-name>
<config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>com.ibm.db2.jcc.DB2Driver</config-property-value>
```

この項で説明する手順は、次のシナリオが当てはまる場合にのみ実行してください。

- サポートされている旧バージョンの Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server をバージョン 12c (12.1.3.0.0) にアップグレードしようとしている。
- アプリケーション・アダプタ用にデータベース・リポジトリを使用するように iBSE を構成している。

それ以外の場合は、残りのステップをスキップできます。

管理対象モードの場合：

1. サポートされている旧バージョンをアップグレードする形で 12c アプリケーション・アダプタをインストールした後、<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\ ディレクトリにある `ibseconfig.xml` ファイルを一時的な保存場所にある `ibseconfig.xml` ファイルと置き換えます。

注意： アダプタのアップグレード・プロセスを完了するには、次のいずれかのオプションを実行する必要があります。

オプション 1:

Oracle WebLogic Server を起動し、J2CA および BSE アダプタ・コンポーネント (`iwafjca.rar`、`iwafjca.war`、`ibse.war`) を更新して、変更をアクティブにします。アダプタの更新方法の詳細は、2-34 ページの 2.7 項「ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新」を参照してください。

オプション 2:

Oracle WebLogic Server を再起動し、`iwafjca.rar`、`iwafjca.war` および `ibse.war` ファイルをアンデプロイして再デプロイします。

J2CA および BSE アダプタ・コンポーネントのデプロイ方法の詳細は、次の各項を参照してください。

- 2.5.3 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コンネクタ・アプリケーションのデプロイ」
- 2.5.4 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ」
- 2.6.2 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ」

アダプタのデプロイと再デプロイにスクリプトが必要な場合は、2-34 ページの 2.7 項「ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新」を参照してください。

2.3.5 アプリケーション・エクスプローラの起動

この項では、アプリケーション・エクスプローラを起動する方法を説明します。

64 ビットの Windows 以外の環境で 64 ビット Java を使用する場合

64 ビットの Windows 以外の環境でアプリケーション・エクスプローラが 64 ビット Java を使用するように構成するには、次に示す SOA/OSB のアダプタ・インストール・ディレクトリにある `iwae.sh` ファイルに、次のような変更を加える必要があります。

```
<ADAPTER_HOME>/tools/iwae/bin
```

`iwae.sh` ファイルで、スクリプトの最後までナビゲートして次の変更を加えます。

元のバージョン:

```
$JAVACMD $remdbg -classpath $CLASSPATH -Diway.home=$IWAY55 -Diway.oem=osb
-DsuppressSwingDropSupport=true -Dfile.encoding=ISO8859_1
com.ibi.bse.gui.BseFlashScreen -D64 -MODE 2 $opt
```

変更後のバージョン:

```
$JAVACMD -d64 $remdbg -classpath $CLASSPATH -Diway.home=$IWAY55 -Diway.oem=osb
-DsuppressSwingDropSupport=true -Dfile.encoding=ISO8859_1
com.ibi.bse.gui.BseFlashScreen -D64 -MODE 2 $opt
```

アプリケーション・エクスプローラを起動して使い始めるには、次の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. 次のディレクトリへナビゲートします。

```
<ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\bin
```
3. `setDomainEnv.cmd` (Windows) または `./setDomainEnv.sh` (UNIX/Linux) を実行します。

このコマンドは、クラス・パスと、Oracle WebLogic Server 環境でのアプリケーション・エクスプローラに関する他の環境変数を設定します。さらに、アプリケーション・エクスプローラが Oracle WebLogic Server の API にアクセスして WSDL ファイルを Oracle Service Bus (OSB) コンソールに公開することを可能にします。
4. コマンド・プロンプトは閉じないでください。
5. SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにナビゲートします。

```
<ADAPTER_HOME>\tools\iwaeb\bin
```
6. `ae.bat` (Windows) または `iwaeb.sh` (UNIX/Linux) を実行してアプリケーション・エクスプローラを起動します。

2.4 Oracle WebLogic Server アダプタ・アプリケーション・エクスプローラの構成

アプリケーション・エクスプローラを使用して WSDL ファイルを生成するには、まず構成の詳細を保存するリポジトリを作成する必要があります。エンタープライズ情報システム (EIS) のメタデータを調べるには、実装ごとに特定のリポジトリを構成しておく必要があります。実行時にはリポジトリ内の情報も参照されます。

Business Services Engine (BSE) では、使用するプログラミング言語やオペレーティング・システムに関係なくアダプタからアクセス可能な Web サービスが、企業資産に基づいて生成されます。また、Oracle WebLogic Server で稼働するスタンドアロン Java アプリケーションとして、BSE を使用することもできます。

J2CA は、J2EE Connector Architecture 準拠のアプリケーション・サーバーで稼働し、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server を使用した統合サービスを提供するために、Common Client Interface (CCI) を使用します。コネクタをデプロイした後、アダプタにアクセスできます。

2.4.1 Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine の構成の作成

アプリケーション・エクスプローラを使用して Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の構成を作成するには、最初に新規構成を定義する必要があります。これは、Oracle WebLogic Server で Web アプリケーションとして BSE をデプロイするための前提条件です。

BSE の新規構成の定義

BSE の新規構成を定義する手順：

1. 2-13 ページの「[アプリケーション・エクスプローラの起動](#)」で説明している手順を実行します。

注意： UNIX または Linux プラットフォームで `iwaeb.sh` ファイルを実行する前に、権限を変更する必要があります。例：

```
chmod +x iwaeb.sh
```

2. 図 2-9 のように、アプリケーション・エクスプローラで「構成」ノードを右クリックして「新規」を選択します。

図 2-9 「構成」ノード

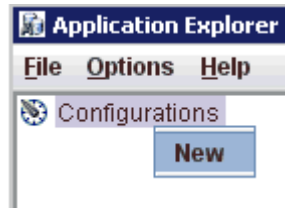
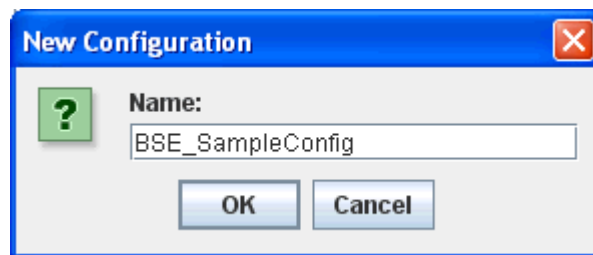


図 2-10 のように、「新規構成」ダイアログが表示されます。

図 2-10 「新規構成」ダイアログ



3. 新規構成の名前 (例: *BSE_SampleConfig*) を入力して「OK」をクリックします。

注意: ここで指定した BSE 構成の名前は、BSE デプロイメント・プロセスで使用されます。

図 2-11 BSE の「新規構成」ダイアログ



4. 「サービス・プロバイダ」リストから **iBSE** を選択します。
5. 「iBSE URL」フィールドで、デフォルトの URL を受け入れるか、次の書式の別の URL に置き換えます

`http://host name:port/ibse/IBSEServlet`

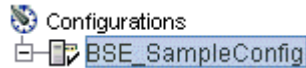
host name は Oracle WebLogic Server が存在するシステムで、*port* は Oracle WebLogic Server がリスニングする HTTP ポート番号です。図 2-11 を参照してください。

注意: HTTP ポート番号はインストールのタイプ (Oracle SOA Suite または Oracle Service Bus) によって異なります。

6. 「OK」をクリックします。

図 2-12 のように、ルートである「構成」ノードの下に新規構成を表すノードが表示されます。

図 2-12 BSE_SampleConfig ノード



2.4.2 Oracle WebLogic Server Adapter J2EE Connector Architecture の構成の作成

アプリケーション・エクスプローラを使用して Oracle WebLogic Server Adapter J2EE Connector Architecture (J2CA) の構成を作成するには、最初に新規構成を定義する必要があります。これは、Oracle WebLogic Server で Web アプリケーションとして J2CA をデプロイするための前提条件です。

J2CA の新規構成の定義

J2CA の新規構成を定義する手順：

1. 2-13 ページの「アプリケーション・エクスプローラの起動」で説明している手順を実行します。

注意： UNIX または Linux プラットフォームで `iwae.sh` ファイルを実行する前に、権限を変更する必要があります。例：

```
chmod +x iwae.sh
```

2. 図 2-13 のように、アプリケーション・エクスプローラで「構成」ノードを右クリックして「新規」を選択します。

図 2-13 アプリケーション・エクスプローラに表示された「構成」ノード

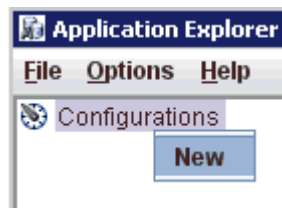
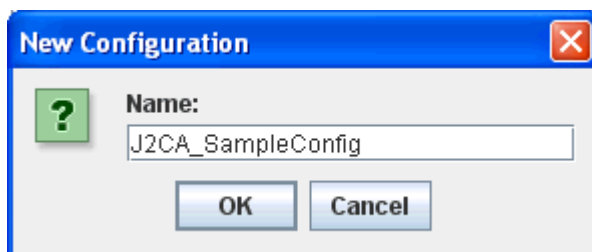


図 2-14 のように、「新規構成」ダイアログが表示されます。

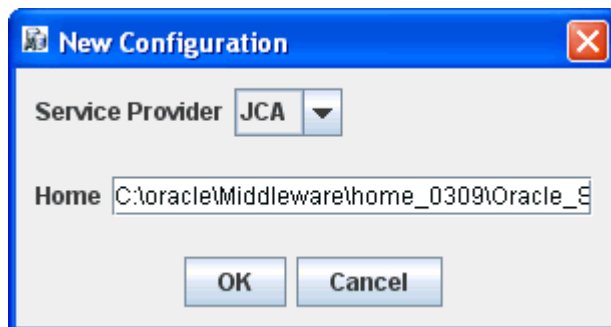
図 2-14 J2CA の新規構成の名前



3. 新規構成の名前 (例: `J2CA_SampleConfig`) を入力して「OK」をクリックします。

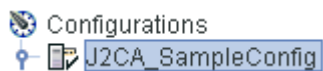
注意：ここで指定した J2CA 構成の名前は、J2CA デプロイメント・プロセスで使用されます。

図 2-15 J2CA の「新規構成」ダイアログ



4. 図 2-15 のように、「サービス・プロバイダ」リストから **JCA** を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
 - 図 2-16 のように、ルートである「構成」ノードの下に新規構成を表すノードが表示されます。

図 2-16 J2CA のサンプル構成ノード



2.5 J2CA の構成とデプロイ

要件に応じて適切な設定を構成した後、まず Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用して、Oracle WebLogic Server とともに使用する J2CA コネクタ・アプリケーションをデプロイする必要があります。J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイが正常に完了した後、J2CA Installation Verification Program (IVP) を構成してデプロイできます。この項では、J2CA コネクタ・アプリケーションおよび J2CA Installation Verification Program (IVP) の設定の構成方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- 2.5.1 項「J2CA コネクタ・アプリケーションの設定の構成」
- 2.5.2 項「J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理の構成」
- 2.5.3 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイ」
- 2.5.4 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ」
- 2.5.5 項「アプリケーション・エクスプローラを使用した J2CA 構成への接続」

2.5.1 J2CA コネクタ・アプリケーションの設定の構成

J2CA コネクタ・アプリケーションの設定を構成する手順：

1. 次を示す SOA/OSB のアダプタ・インストール・ディレクトリにある `ra.xml` ファイルを見つけます。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar\META-INF\ra.xml
```

2. `ra.xml` ファイルをエディタで開きます。
3. `IWayHome` プロパティの値を入力します。

これはアダプタがインストールされているフォルダです。例：

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayHome</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>C:\oracle\Middleware\home_0309\Oracle_
SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters</config-property-value>
</config-property>
```

4. `IWayConfig` プロパティの値を入力します。

これは、アプリケーション・エクスプローラで新規 J2CA 構成を作成したときに指定した値です。例：

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayConfig</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>J2CA_SampleConfig</config-property-value>
</config-property>
```

5. SAP 接続プーリングを使用する場合は、`ShareJCO` プロパティの値として `true` と入力します。使用しない場合は、このプロパティをデフォルト値のままにします。

例：

```
<config-property>
  <config-property-name>ShareJCO</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>>true</config-property-value>
</config-property>
```

SAP 接続プーリングの詳細は、『Oracle Fusion Middleware Application Adapters Oracle WebLogic Server Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.0) ユーザーズ・ガイド』の接続プーリングに関する項を参照してください。

6. ra.xml ファイルを保存してエディタを終了します。

2.5.2 J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理の構成

J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理は、ra.xml ファイルの構成によって制御されます。LogLevel、LogSize、LogCount などのプロパティが、構成する必要がある実際のパラメータです。

例：

```
<config-property>
  <config-property-name>LogLevel</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>DEBUG</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>LogSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>100000</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>LogCount</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>10</config-property-value>
</config-property>
```

LogLevel では、ログ・ファイルに表示されるログのレベルを指定します。

LogLevelLogLevel の有効な値としては、DEBUG、INFO、ERROR、FATAL、WARN などがあります。開発環境とテスト環境のログ・レベルとしては、ログの詳細がすべて表示される DEBUG が適しています。本番環境に適しているログ・レベルは ERROR です。

次の表は、LogLevel プロパティが J2CA のログで ra.xml ファイル内の対応する LogLevel プロパティ設定に基づいてどのように更新されるかを示しています。

ra.xml で設定された LogLevel	J2CA のログで更新された LogLevel
DEBUG	FINEST
ERROR	SEVERE
WARN	WARNING
INFO	INFO

LogSize はログ・ファイルのサイズを制御するパラメータです。サイズはバイト数で指定する必要があります。

LogCount は必要なログ・ファイルの数を制御するパラメータです。このパラメータの値は整数で指定する必要があります。生成されるログ・ファイルの数は指定された数を超えず、ログのロールオーバーは生成されたファイル内でのみ発生します。

ログ・ファイルは <ADAPTER_HOME>\config\xxxxxxx\log フォルダの下に作成されます。xxxxxxx はアプリケーション・エクスプローラで作成した J2CA 構成の名前です。アプリケーション・エクスプローラに表示される各 J2CA 構成には、名前付き J2CA 構成フォルダの下にそれぞれ対応するログ・フォルダが存在します。

インバウンド処理かアウトバウンド処理かに関係なく、すべてのログ情報は iwafjcaxxx.log というネーミング規則に従った名前を持つファイルに保存されます。アウトバウンド処理のログは iwafjcaxx.log という書式で更新されます (例: iwafjca00.log)。

イントバウンド処理のログは `iwafjca15xx.log` という書式で更新されます (例: `iwafjca1500.log`)。

アウトバウンド処理がデプロイされると、`iwafjca00.log` ファイル内のすべての現行ログが更新されます。このファイルが最大ログ・ファイル・サイズに到達すると、その内容が `iwafjca10.log` ファイルとして保存され、`iwafjca00.log` には引き続き新規のアクティビティが記録されていきます。`iwafjca00.log` が再び最大ログ・ファイル・サイズに到達すると、このファイルが `iwafjca10.log` として保存され、前のログ・ファイル (`iwafjca10.log`) は `iwafjca20.log` として保存されます。

新規のログ・ファイルはすべて、`ra.xml` ファイルの `LogCount` パラメータに指定された値に基づいて、このように作成されます。ログ・ファイルが最大ログ・ファイル・サイズ (`LogSize`) および最大ログ・ファイル数 (`LogCount`) に達すると、最初に作成されたログ・ファイルのログが上書きされます。たとえば、`LogSize` を 100000、`LogCount` を 5 に設定した場合、最初は最大サイズ 100000 の 5 つのファイルがそれぞれ `iwafjca00.log`、`iwafjca10.log`、`iwafjca20.log`、`iwafjca30.log`、`iwafjca40.log` として作成されます。`iwafjca00.log` ファイルが最大サイズに達すると、`iwafjca40.log` ファイルの内容が `iwafjca30.log` で置き換えられ、残りのログ・ファイルの内容も同様に置き換えられていきます。イントバウンド処理の J2CA ログ・ファイル管理でもこの動作は同じです。

2.5.3 Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイ

J2CA コネクタ・アプリケーションをデプロイする手順:

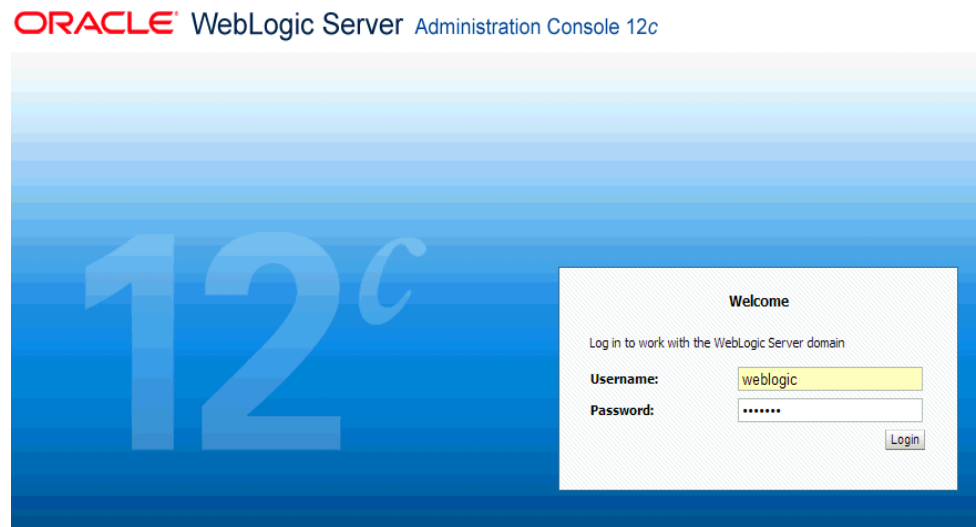
1. 構成した Oracle WebLogic Server ドメインの Oracle WebLogic Server を起動します。
2. 次の URL を入力して、Web ブラウザで Oracle WebLogic Server 管理コンソールを開きます。

`http://host name:port/console`

`host name` は Oracle WebLogic Server が稼働しているシステムの名前で、`port` はその Oracle WebLogic Server 用のポートです。Oracle WebLogic Server のデフォルト・ポートは 7001 です。ただし、この値はシステムによって異なる場合があります。

図 2-17 のように、Oracle WebLogic Server 管理コンソールのページが表示されます。

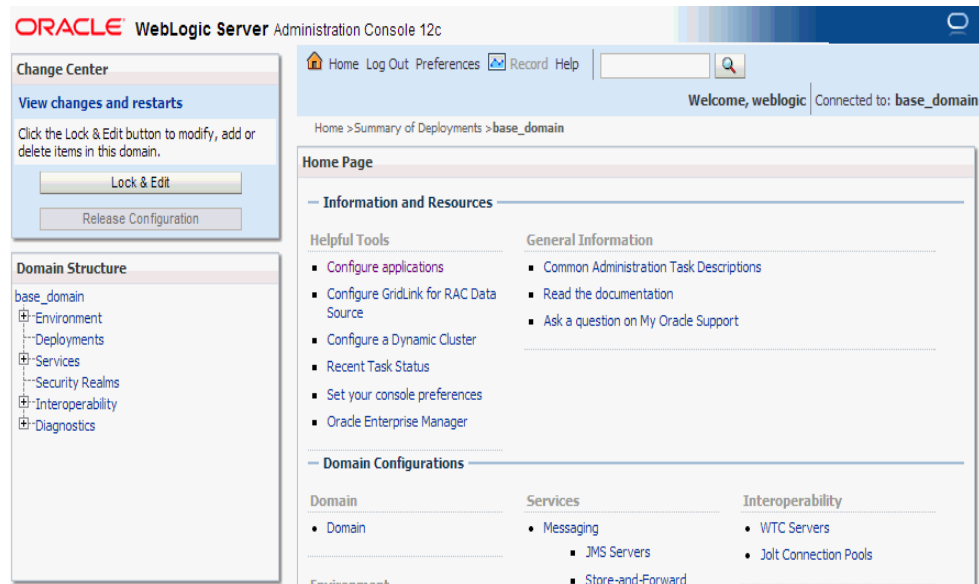
図 2-17 Oracle WebLogic Server 管理コンソール



3. 管理者権限を持つアカウントを使用して、Oracle WebLogic Server 管理コンソールにログインします。

図 2-18 のように、Oracle WebLogic Server 管理コンソールのホーム・ページが表示されます。

図 2-18 Oracle WebLogic Server 管理コンソールのホーム・ページ



4. 左ペインの「チェンジ・センター」の下で「ロックして編集」をクリックし、「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

図 2-19 のように「デプロイメント」ページが表示されます。

図 2-19 「デプロイメント」ページ

Deployments

Install Update Delete Start Stop

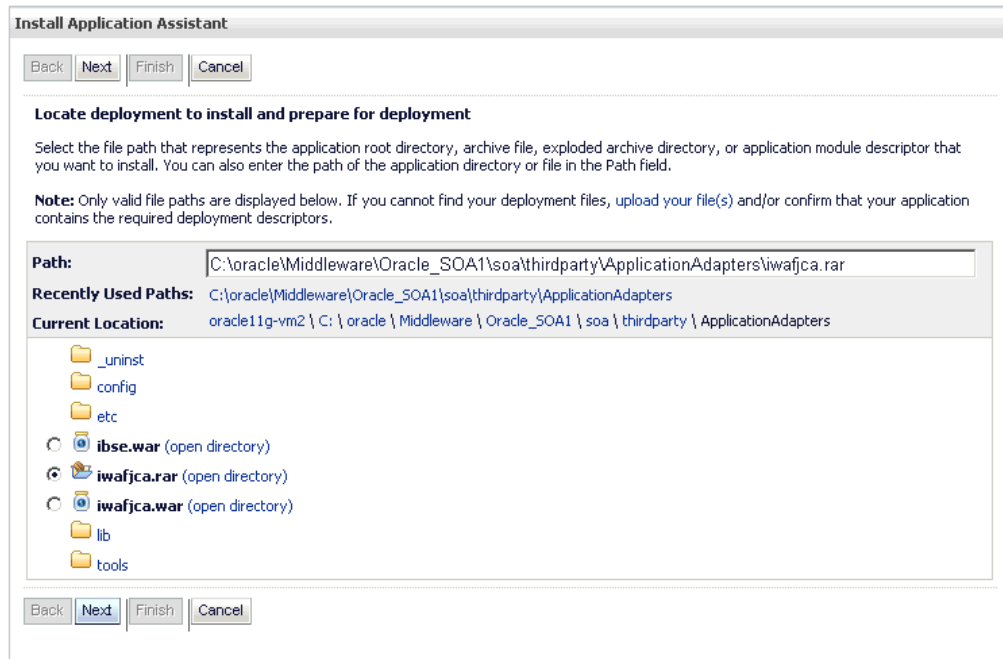
Showing 1 to 24 of 24 Previous | Next

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313

5. 「インストール」をクリックします。

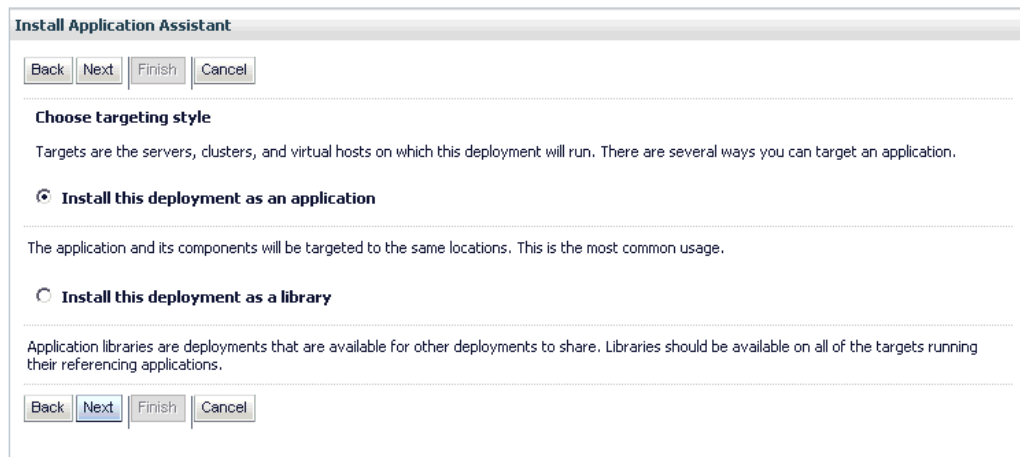
図 2-20 のように「アプリケーション・インストール・アシスタント」ページが表示されます。

図 2-20 「アプリケーション・インストール・アシスタント」 ページ



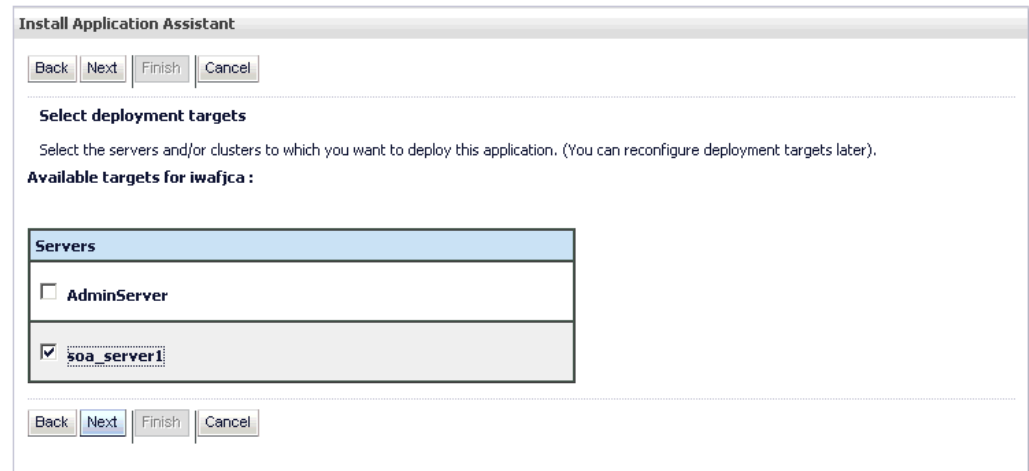
6. アダプタがインストールされている <ADAPTER_HOME> の場所を参照します。
 - SOA の場合 :
<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters
 - OSB の場合 :
<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters
7. 「iwafjca.rar」 オプションを選択して「次へ」をクリックします。
 ☒ 2-21 のように「ターゲット指定スタイルの選択」 ページが表示されます。

図 2-21 「ターゲット指定スタイルの選択」 ページ



8. デフォルトの「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」が選択されたままにして「次へ」をクリックします。
 ☒ 2-22 のように「デプロイ・ターゲットの選択」 ページが表示されます。

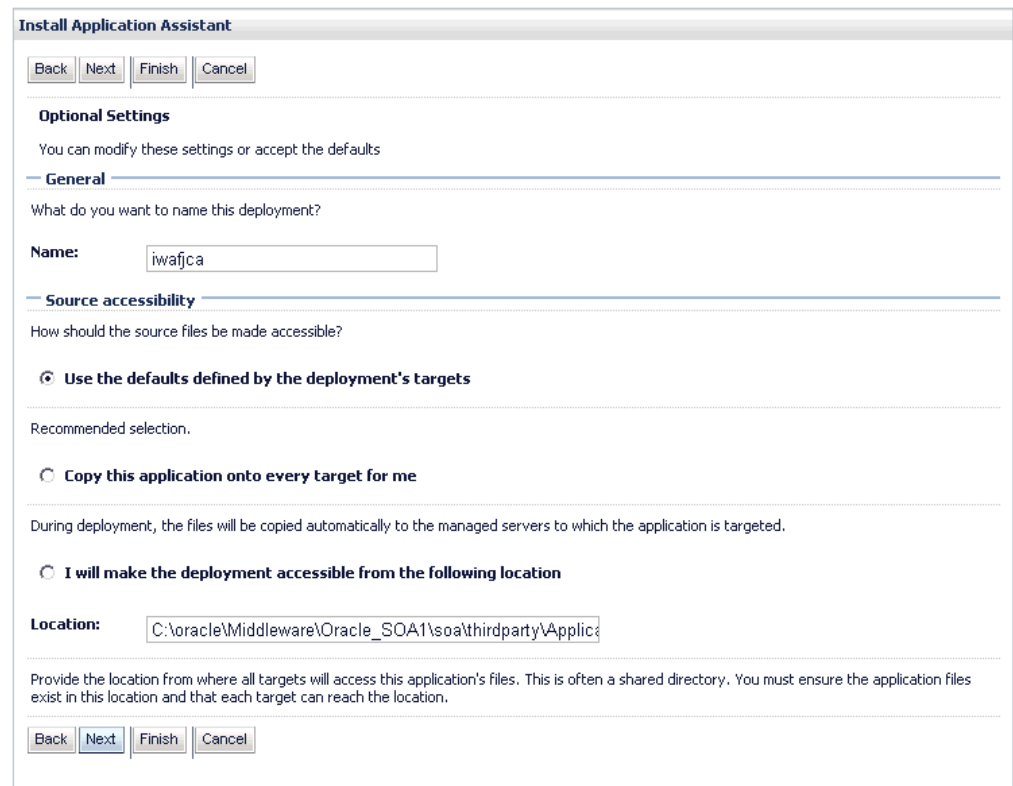
図 2-22 「デプロイ・ターゲットの選択」ページ



9. `soa_server1` を選択して「次へ」をクリックします。

図 2-23 のように「オプション設定」ページが表示されます。

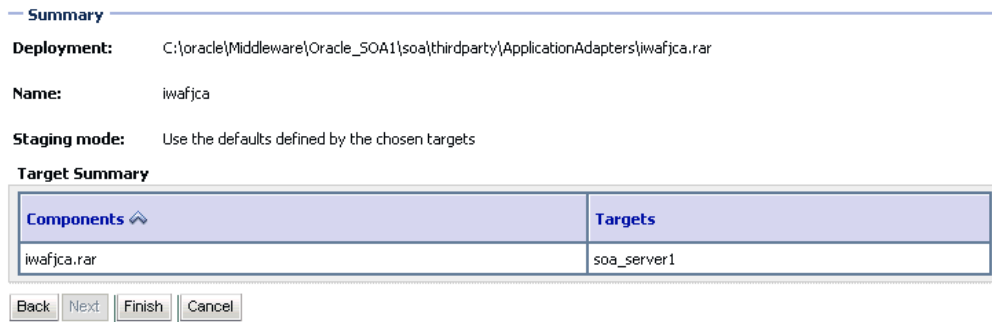
図 2-23 「オプション設定」ページ



10. デフォルト値のまま再び「次へ」をクリックします。

図 2-24 のように「サマリー」ページが表示されます。

図 2-24 「サマリー」 ページ



11. 「終了」をクリックします。

J2CA (iwafjca) コネクタ・アプリケーションの設定ページが表示されます。

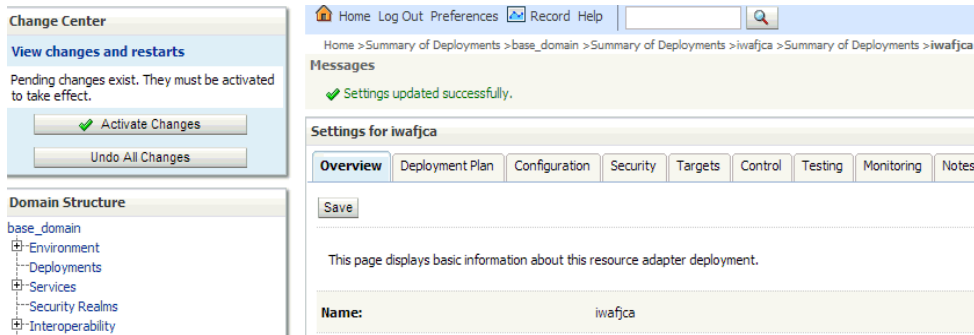
12. 「保存」をクリックします。

デプロイが成功したことを知らせる「設定が正常に更新されました。」というメッセージが表示されます。

13. 左ペインの「チェンジ・センター」の下で「変更のアクティブ化」をクリックします。

14. 図 2-25 のように、左ペインの「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

図 2-25 ドメイン構造



15. 図 2-26 のように、デプロイ済の全アプリケーションがリストされている表の中を探して J2CA (iwafjca) コネクタ・アプリケーションを見つけます。

図 2-26 「デプロイメント」 ページ

Deployments

Install Update Delete Start Stop

Showing 1 to 25 of 25 Previous | Next

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313
<input type="checkbox"/>	composer	New		Enterprise Application	315
<input type="checkbox"/>	DbAdapter	New		Resource Adapter	322
<input type="checkbox"/>	DefaultToDoTaskFlow	New		Enterprise Application	314
<input type="checkbox"/>	DMS Application (11.1.1.1.0)	Active	OK	Web Application	5
<input type="checkbox"/>	em	Active	OK	Enterprise Application	400
<input type="checkbox"/>	FileAdapter	New		Resource Adapter	321
<input type="checkbox"/>	FMW Welcome Page Application (11.1.0.0.0)	Active	OK	Enterprise Application	5
<input type="checkbox"/>	FtpAdapter	New		Resource Adapter	325
<input checked="" type="checkbox"/>	iwafjca	Installed		Resource Adapter	100
<input type="checkbox"/>	JmsAdapter	New		Resource Adapter	323

16. 「iwafjca」 オプションを選択します。

17. 「起動」サブメニュー（下向き矢印）をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択します。

「アプリケーション起動アシスタント」ページが表示されます。

18. 「はい」をクリックして、選択したデプロイメントを起動します。

これで、Installation Verification Program (IVP) をデプロイするための準備ができました。

2.5.4 Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ

J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイと起動は、J2CA コネクタ・アプリケーションの後に行う必要があります。J2CA IVP をデプロイする際には、デプロイメントの順序も変更する方が無難です。たとえば、J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイメント順序が 100 の場合は、J2CA IVP のデプロイメント順序を 101 に設定します。

J2CA IVP をデプロイする手順：

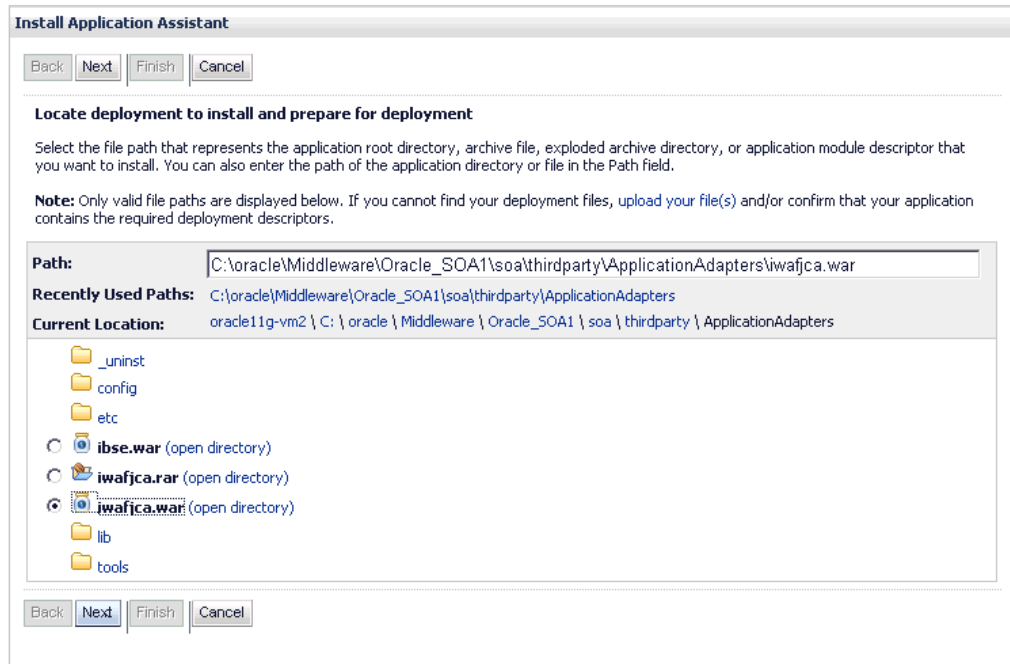
1. 左ペインの「チェンジ・センター」の下で「ロックして編集」をクリックし、「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

「デプロイメント」ページが表示されます。

2. 「インストール」をクリックします。

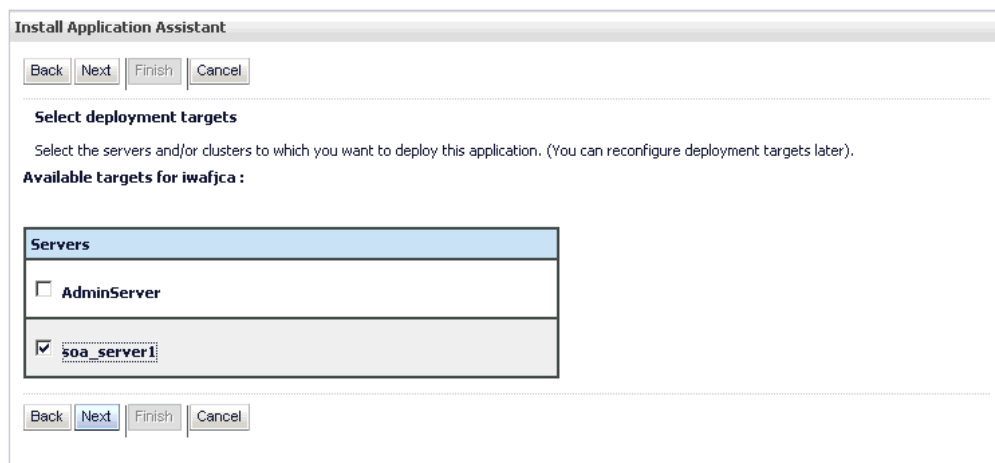
図 2-27 のように「アプリケーション・インストール・アシスタント」ページが表示されず。

図 2-27 アプリケーション・インストール・アシスタント



3. アダプタがインストールされている <ADAPTER_HOME> の場所を参照します。
 - SOA の場合 :
 - <ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters
 - OSB の場合 :
 - <ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters
4. 「iwafjca.war」 オプションを選択して「次へ」をクリックします。
「ターゲット指定スタイルの選択」ページが表示されます。
5. デフォルトの「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」が選択されたままにして「次へ」をクリックします。
図 2-28 のように「デプロイ・ターゲットの選択」ページが表示されます。

図 2-28 「デプロイ・ターゲットの選択」ページ



6. `soa_server1` を選択して「次へ」をクリックします。

図 2-29 のように「オプション設定」ページが表示されます。

図 2-29 「オプション設定」ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Optional Settings

You can modify these settings or accept the defaults

General

What do you want to name this deployment?

Name:

Security

What security model do you want to use with this application?

DD Only: Use only roles and policies that are defined in the deployment descriptors.

Custom Roles: Use roles that are defined in the Administration Console; use policies that are defined in the deployment descriptor.

Custom Roles and Policies: Use only roles and policies that are defined in the Administration Console.

Advanced: Use a custom model that you have configured on the realm's configuration page.

Source accessibility

7. 「名前」フィールドに次のように入力します。

`iwafjcatest`

8. 残りのデフォルト値をそのままにして「次へ」をクリックします。

「サマリー」ページが表示されます。

9. 「終了」をクリックします。

J2CA Installation Verification Program (IVP) の設定ページが表示されます。

10. 「保存」をクリックします。

デプロイが成功したことを知らせる「設定が正常に更新されました。」というメッセージが表示されます。

11. 図 2-30 のように、左ペインの「チェンジ・センター」の下で「変更のアクティブ化」をクリックします。

図 2-30 チェンジ・センター

Change Center

View changes and restarts

Pending changes exist. They must be activated to take effect.

Domain Structure

- base_domain
 - Environment
 - Deployments
 - Services
 - Security Realms
 - Interoperability

Home Log Out Preferences Record Help

Home > Summary of Deployments > base_domain > Summary of Deployments > iwafjca > Summary of Deployments > iwafjca

Messages

Settings updated successfully.

Settings for iwafjca

Overview Deployment Plan Configuration Security Targets Control Testing Monitoring Notes

This page displays basic information about this resource adapter deployment.

Name: iwafjca

12. 左ペインの「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

13. 図 2-31 のように、デプロイ済の全アプリケーションがリストされている表の中を探して J2CA (iwafjctest) Installation Verification Program (IVP) を見つけます。

図 2-31 「デプロイメント」 ページ

Deployments

Install Update Delete Start Stop Showing 1 to 26 of 26 Previous | Next

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313
<input type="checkbox"/>	composer	New		Enterprise Application	315
<input type="checkbox"/>	DbAdapter	New		Resource Adapter	322
<input type="checkbox"/>	DefaultToDoTaskFlow	New		Enterprise Application	314
<input type="checkbox"/>	DMS Application (11.1.1.1.0)	Active	OK	Web Application	5
<input type="checkbox"/>	em	Active	OK	Enterprise Application	400
<input type="checkbox"/>	FileAdapter	New		Resource Adapter	321
<input type="checkbox"/>	FMW Welcome Page Application (11.1.0.0.0)	Active	OK	Enterprise Application	5
<input type="checkbox"/>	FtpAdapter	New		Resource Adapter	325
<input type="checkbox"/>	wafjca	New		Resource Adapter	100
<input checked="" type="checkbox"/>	iwafjctest	distribute Initializing		Web Application	100
<input type="checkbox"/>	JmsAdapter	New		Resource Adapter	323

14. 「iwafjctest」 オプションを選択します。
15. 「起動」 サブメニュー (下向き矢印) をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択します。
- 「アプリケーション起動アシスタント」 ページが表示されます。
16. 「はい」 をクリックして、選択したデプロイメントを起動します。

これで、J2CA (iwafjctest) Installation Verification Program (IVP) が Oracle WebLogic Server に正常にデプロイされました。

アプリケーション・エクスプローラを使用してアダプタ・ターゲットを作成した後、これらのターゲットを選択して Oracle J2CA テスト・サブレットからのアウトバウンド接続をテストできます。

注意： アプリケーション・エクスプローラを使用してアダプタ・ターゲットを作成した後、Oracle WebLogic Server を再起動する必要があります。

2.5.5 アプリケーション・エクスプローラを使用した J2CA 構成への接続

新規 J2CA 構成に接続する手順：

1. 接続先の構成を右クリックします (例：J2CA_SampleConfig)。
2. 「接続」を選択します。
アダプタおよびイベントのノードが表示されます。

注意： イベントは、J2CA 構成を使用する場合にのみ構成できます。

図 2-32 のように、J2CA_SampleConfig という名前の J2CA 構成のサンプルが表示されます。

図 2-32 J2CA のサンプル構成ノード



- 「アダプタ」ノードを使用して、アダプタとのインバウンド相互作用を作成します。
- 「イベント」ノードを使用して、イベントをリスニングするリスナーを構成します。

インストール後のタスクが完了した後、Oracle Fusion Middleware Application Adapters の新規ターゲットを定義できます。ターゲットの構成に関する詳細は、使用するアダプタの対応するユーザー・ガイドを参照してください。

2.6 Business Services Engine の構成とデプロイ

要件に応じて適切な設定を構成した後、Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用して、Oracle WebLogic Server とともに使用する BSE をデプロイする必要があります。この項では、Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- 2.6.1 項「Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成」
- 2.6.2 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ」
- 2.6.3 項「アプリケーション・エクスプローラを使用した BSE 構成への接続」

2.6.1 Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成

BSE の設定を構成する手順：

1. 次に示す SOA/OSB のアダプタ・インストール・ディレクトリにある web.xml ファイルを見つけます。

```
<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\web.xml
```

2. web.xml ファイルをエディタで開きます。
3. ibseroot パラメータの値を入力します。

これは、BSE ファイルがアダプタごとのサブディレクトリに保存されているフォルダです。例：

```
<context-param>
```

```

<param-name>ibseroot</param-name>
<param-value>C:\oracle\Middleware\home_0309\Oracle_
SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\ibse.war</param-value>
<description>ibse root directory</description>
</context-param>

```

4. `ibway.home` パラメータの値を入力します。

これはアダプタがインストールされているフォルダです。例：

```

<context-param>
<param-name>ibway.home</param-name>
<param-value>C:\oracle\Middleware\home_0309\Oracle_
SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters</param-value>
<description>license file location</description>
</context-param>

```

5. `ibway.config` パラメータの値を入力します。

これは、アプリケーション・エクスペローラで新規 BSE 構成を作成したときに指定した値です。例：

```

<context-param>
<param-name>ibway.config</param-name>
<param-value>BSE_SampleConfig</param-value>
<description>Base Configuration</description>
</context-param>

```

6. `web.xml` ファイルを保存してエディタを終了します。

2.6.2 Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ

BSE をデプロイする手順：

1. 構成した Oracle WebLogic Server ドメインの Oracle WebLogic Server を起動します。
2. 次の URL を入力して、Web ブラウザで Oracle WebLogic Server 管理コンソールを開きます。

```
http://host name:port/console
```

`host name` は Oracle WebLogic Server が稼働しているシステムの名前で、`port` はその Oracle WebLogic Server 用のポートです。Oracle WebLogic Server のデフォルト・ポートは 7001 です。ただし、この値はシステムによって異なる場合があります。

3. 管理者権限を持つアカウントを使用して、Oracle WebLogic Server 管理コンソールにログインします。

Oracle WebLogic Server 管理コンソールのホーム・ページが表示されます。

4. 左ペインの「チェンジ・センター」の下で「ロックして編集」をクリックし、「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

「デプロイメント」ページが表示されます。

5. 「インストール」をクリックします。

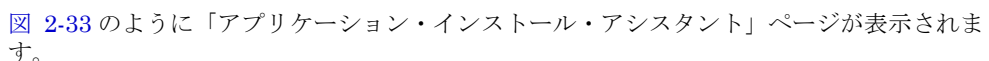
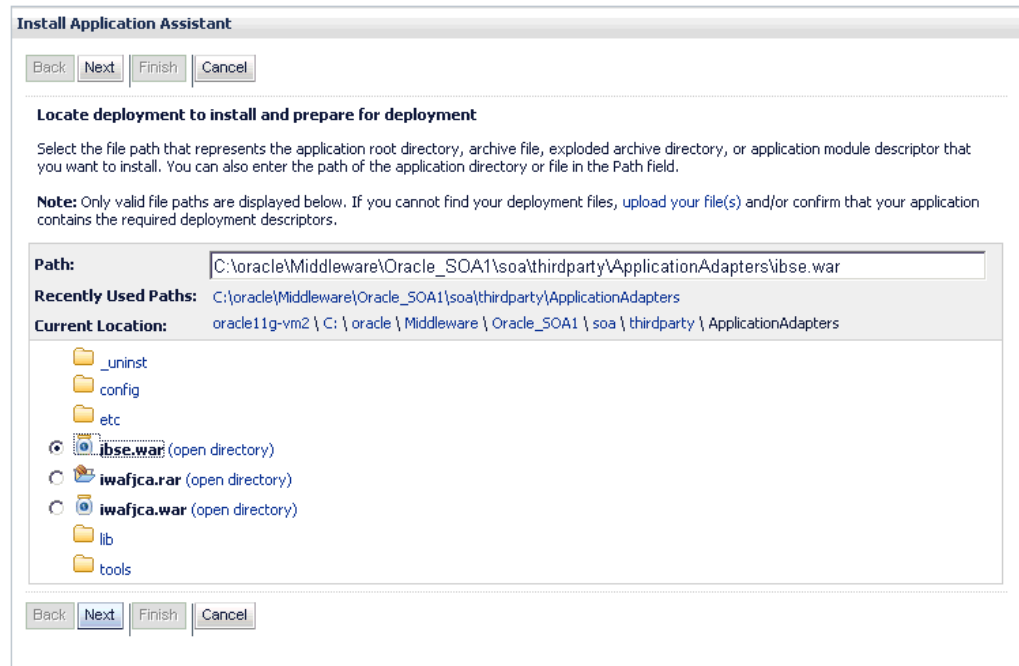
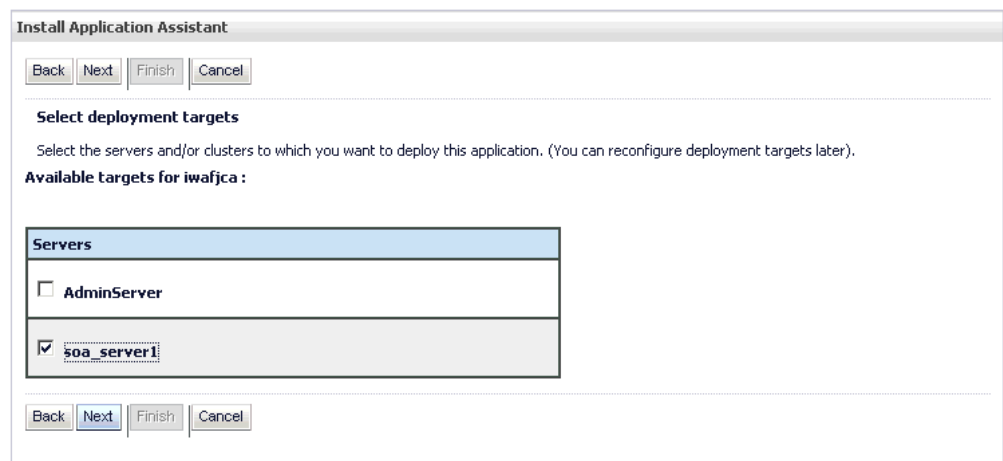
 2-33 のように「アプリケーション・インストール・アシスタント」ページが表示されます。

図 2-33 アプリケーション・インストール・アシスタント



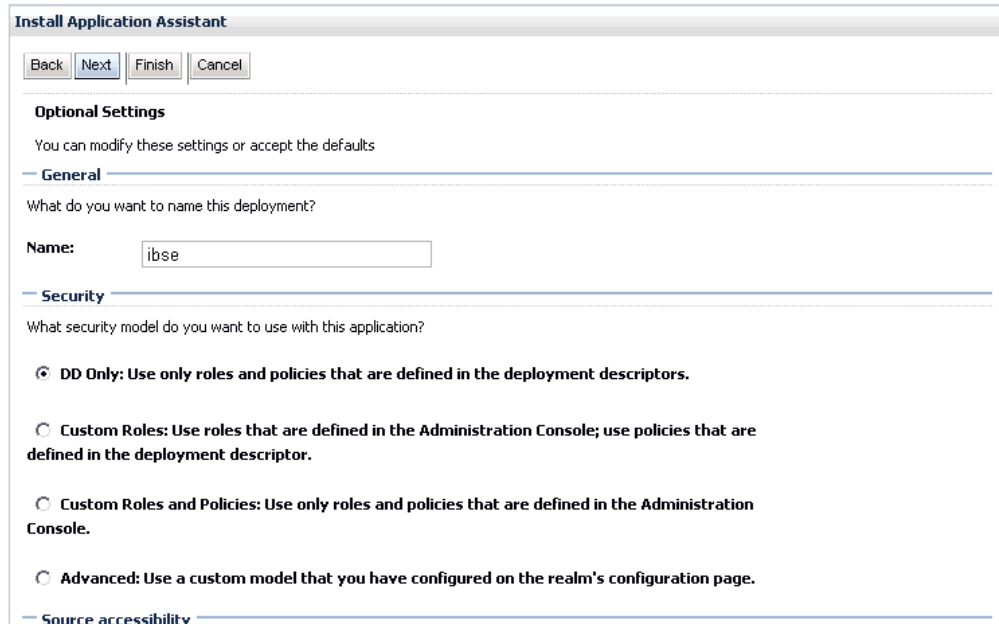
6. アダプタがインストールされている <ADAPTER_HOME> の場所を参照します。
 - SOA の場合 :
 - <ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters
 - OSB の場合 :
 - <ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters
7. 「ibse.war」 オプションを選択して「次へ」をクリックします。
「ターゲット指定スタイルの選択」ページが表示されます。
8. デフォルトの「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」が選択されたままにして「次へ」をクリックします。
図 2-34 のようにデプロイ・ターゲット選択用のページが表示されます。

図 2-34 デプロイ・ターゲット選択用のページ



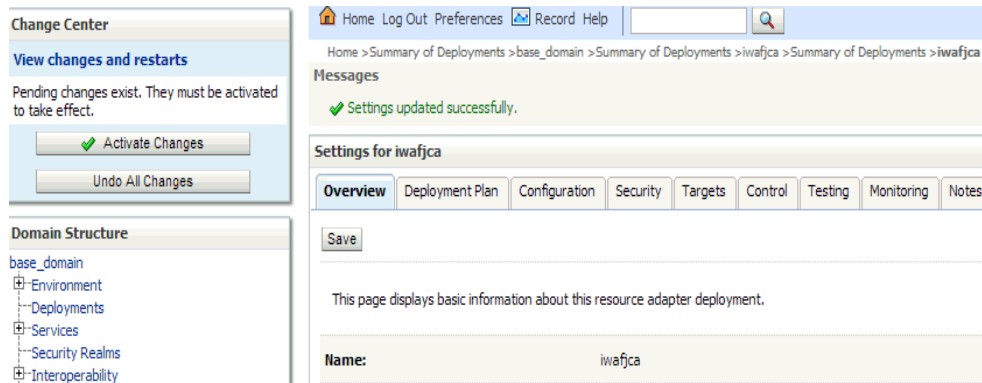
9. `soa_server1` を選択して「次へ」をクリックします。
☒ 2-35 のように「オプション設定」ページが表示されます。

図 2-35 「オプション設定」 ページ



10. 残りのデフォルト値をそのままにして「次へ」をクリックします。
「サマリー」ページが表示されます。
11. 「終了」をクリックします。
BSE (ibse) アプリケーションの設定ページが表示されます。
12. 「保存」をクリックします。
デプロイが成功したことを知らせる「設定が正常に更新されました。」というメッセージが表示されます。
13. ☒ 2-36 のように、左ペインの「チェンジ・センター」の下で「変更のアクティブ化」をクリックします。

図 2-36 「変更のアクティブ化」 ボタン



14. 左ペインの「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

15. 図 2-37 のように、デプロイ済の全アプリケーションがリストされている表の中を探して BSE (ibse) アプリケーションを見つけます。

図 2-37 「デプロイメント」 ページ

Deployments

Install Update Delete Start Stop Showing 1 to 27 of 27 Previous Next

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313
<input type="checkbox"/>	composer	New		Enterprise Application	315
<input type="checkbox"/>	DbAdapter	New		Resource Adapter	322
<input type="checkbox"/>	DefaultToDoTaskFlow	New		Enterprise Application	314
<input type="checkbox"/>	DMS Application (11.1.1.1.0)	Active	OK	Web Application	5
<input type="checkbox"/>	em	Active	OK	Enterprise Application	400
<input type="checkbox"/>	FileAdapter	New		Resource Adapter	321
<input type="checkbox"/>	FMW Welcome Page Application (11.1.0.0.0)	Active	OK	Enterprise Application	5
<input type="checkbox"/>	FtpAdapter	New		Resource Adapter	325
<input checked="" type="checkbox"/>	ibse	New		Web Application	100
<input type="checkbox"/>	iwafjca	New		Resource Adapter	100
<input type="checkbox"/>	iwafjctest	New		Web Application	100

16. 「ibse」 オプションを選択します。
17. 「起動」 サブメニュー (下向き矢印) をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択します。
- 「アプリケーション起動アシスタント」 ページが表示されます。
18. 「はい」 をクリックして、選択したデプロイメントを起動します。
- これで、BSE (ibse) アプリケーションが正常に Oracle WebLogic Server にデプロイされました。

2.6.3 アプリケーション・エクスプローラを使用した BSE 構成への接続

新規 BSE 構成に接続する手順：

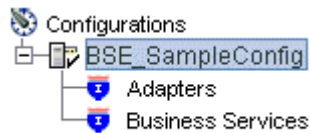
1. 接続先の構成を右クリックします (例：BSE_SampleConfig)。
2. 「接続」 を選択します。

アダプタおよびビジネス・サービス (Web サービスとも呼ばれる) のノードが表示されます。「ビジネス・サービス」ノードは BSE 構成でのみ使用できます。

BSE 構成を使用する場合はイベントは適用されません。イベントは、J2CA 構成を使用する場合にのみ構成できます。

図 2-38 のように、BSE_SampleConfig という名前の BSE 構成のサンプルが表示されます。

図 2-38 BSE のサンプル構成ノード



- 「アダプタ」ノードを使用して、アダプタとのインバウンド相互作用を作成します。
- 「ビジネス・サービス」ノード (BSE 構成でのみ使用可能) を使用して、Web サービスをテストします。また、「ビジネス・サービス」ノードのセキュリティ機能を使用して、Web サービスのセキュリティ設定を制御することもできます。

インストール後のタスクが完了した後、Oracle Fusion Middleware Application Adapters の新規ターゲットを定義できます。ターゲットの構成に関する詳細は、使用するアダプタの対応するユーザー・ガイドを参照してください。

2.7 ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新

この項では、提供されているユーティリティ・スクリプトを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters をデプロイする方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- [2.7.1 項「デプロイメント・スクリプトへのアクセス」](#)
- [2.7.2 項「デプロイメント・スクリプトの使用方法」](#)

注意： この項で説明しているユーティリティ・スクリプトは、次の環境では機能しません。

- SOA/OSB クラスタ環境
 - PS6 から 12c 環境にアップグレードしたアダプタ
-

先に進む前に、次の条件が満たされていることを確認してください。

- Oracle WebLogic Server が起動している必要があります。
- ra.xml と web.xml に対する手動による構成がすべて完了していることを確認してください。
- スクリプトの実行中に次の情報の入力を求められます。先に進む前に適切な情報を用意してください。
 - 管理サーバーのリスニング・ポート - 管理サーバーのリスニングおよび実行の対象となるポート。
 - デプロイ/アンデプロイ/更新されるアダプタ (iBSE、JCA またはその両方)。
 - デプロイ/アンデプロイ/更新するアダプタに付ける名前 (デフォルト値は *ibse*、*iwafjca* および *iwafjcaivp*)。
 - スクリプトの実行対象となる Oracle スイート (SOA または OSB)。
 - 選択した Oracle スイートのドメイン・モード (統合サーバーまたは管理対象モード)。
 - ドメイン作成時に提供されたサーバーの名前。
 - Oracle ホーム - Oracle WebLogic Server および SOA/OSB スイートがインストールされているホームの場所。
 - ドメイン作成時に提供されたドメイン・ユーザー名およびパスワード。

注意: デプロイ、アンデプロイおよび更新スクリプトのパラメータ値は同じにする必要があります (Windows プラットフォームでも Windows 以外のプラットフォームでも)。この項の残りの各トピックでは、説明のための例としてデプロイ・スクリプト (Windows プラットフォーム用) を使用します。

注意: アンデプロイ・スクリプトや更新スクリプトを使用する場合は、アダプタ (ibse.war、iwafjca.rar、iwafjca.war) を Oracle WebLogic Server にデプロイするときに使用された名前を知っておく必要があります。

2.7.1 デプロイメント・スクリプトへのアクセス

この項では、Windows プラットフォームと Windows 以外のプラットフォームでデプロイメント・スクリプトにアクセスする方法を説明します。

2.7.1.1 Windows プラットフォーム

オプション 1:

デプロイメント・スクリプトがある次のディレクトリへナビゲートします。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\util\AdapterDeployment
```

Deployment_Windows.bat ファイルをダブルクリックしてデプロイメントを開始します。

オプション 2:

コマンド・プロンプトで、デプロイメント・スクリプトがある次のディレクトリへナビゲートします。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\util\AdapterDeployment
```

Deployment_Windows.bat ファイルを実行します。

2.7.1.2 Windows 以外のプラットフォーム

コマンド・プロンプトで、デプロイメント・スクリプトがある次のディレクトリへナビゲートします。

```
<ADAPTER_HOME>/etc/util/AdapterDeployment
```

使用しているプラットフォームに応じて、*Deployment_Linux.sh* ファイルまたは *Deployment_Solaris_HP_AIX.sh* ファイルを実行します。

注意: アダプタをアンデプロイする場合に使用できるスクリプトは次のとおりです。

- Windows: UnDeployment_Windows.bat
- Linux: UnDeployment_Linux.sh
- Solaris_AIX_HP: UnDeployment_Solaris_HP_AIX.sh

アダプタを更新する場合に使用できるスクリプトは次のとおりです。

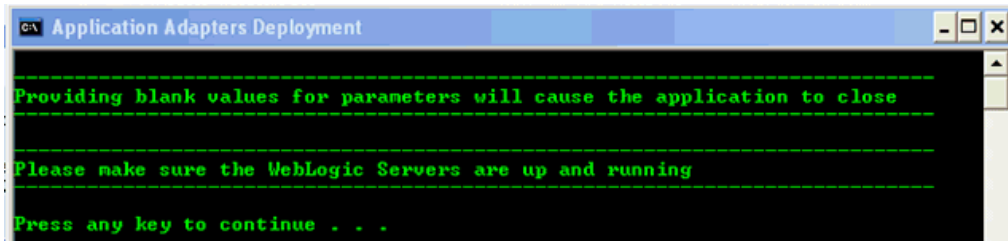
- Windows: Update_Deployment_Windows.bat
 - Linux: Update_Deployment_Linux.sh
 - Solaris_AIX_HP: Update_Deployment_Solaris_HP_AIX.sh
-

2.7.2 デプロイメント・スクリプトの使用法

デプロイメント・スクリプトを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters をデプロイするには、次の手順を実行します。

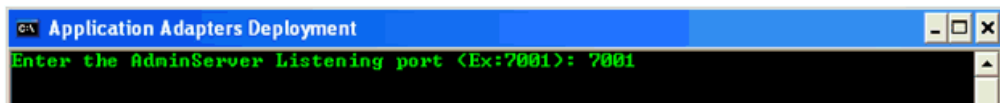
1. デプロイメント・スクリプトを実行すると表示される警告メッセージ (図 2-39) を読みます。

図 2-39 デプロイメント・スクリプトの警告メッセージ



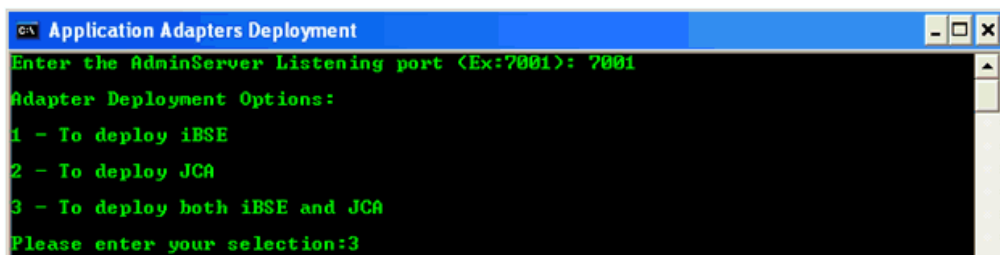
2. 任意のキーを押して続行します。
図 2-40 のように、管理サーバーのリスニング・ポートを入力するように求められます。

図 2-40 管理サーバーのリスニング・ポート



3. リスニング・ポートの値を入力し、[Enter] を押して続行します。
図 2-41 のように、iBSE、JCA、その両方 (iBSE と JCA) のいずれをデプロイするかを選択するように求められます。

図 2-41 アダプタ・デプロイメントのオプション



この例では、iBSE と JCA の両方をデプロイするオプションを使用します。この選択に基づいて、Oracle WebLogic Server にデプロイする iBSE および JCA に付ける名前を入力するように求められます。

4. 3 と入力し、[Enter] を押して続行します。
図 2-42 のように、*ibse.war* ファイルをどのような名前でも Oracle WebLogic Server にデプロイするかを指定するように求められます。

図 2-42 iBSE のデプロイメント名の指定

```

Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port (Ex:7001): 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed (Ex: ibse):ibse

```

5. 適切な名前を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-43 のように、*iwafjca.rar* ファイルをどのような名前でも Oracle WebLogic Server にデプロイするかを指定するように求められます。

図 2-43 JCA (*iwafjca.rar*) のデプロイメント名の指定

```

1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed (Ex: ibse):ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed (Ex: iwafjca):iwafjca

```

6. 適切な名前を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-44 のように、*iwafjca.war* ファイルをどのような名前でも Oracle WebLogic Server にデプロイするかを指定するように求められます。

図 2-44 JCA (*iwafjca.war*) のデプロイメント名の指定

```

Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed (Ex: ibse):ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed (Ex: iwafjca):iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed (Ex: iwafjca_iwp):iwafjca_iwp

```

7. 適切な名前を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-45 のように、スクリプトの実行対象となるスイート (SOA または OSB) を指定するように求められます。

図 2-45 SOA または OSB スイートの選択を求めるプロンプト

```

3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed (Ex: ibse):ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed (Ex: iwafjca):iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed (Ex: iwafjca_iwp):iwafjca_iwp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1

```

8. 適切なオプションを入力し、**[Enter]** を押して続行します。

選択した Oracle スイート (たとえば SOA) のドメイン・モードを入力するように求められます。

9. 適切なオプション (たとえば管理対象モード) を入力し、**[Enter]** を押して続行します。
 図 2-46 のように、SOA 管理対象サーバーの名前を入力するように求められます。

図 2-46 SOA 管理対象サーバーの名前の入力を求めるプロンプト

```

Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port <Ex:7001>: 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed <Ex: iwafjcaivp>:iwafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2): 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
  
```

10. 適切な値を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

注意: 前のステップで統合サーバー・モードを選択した場合は、統合サーバーの名前の入力を求めるプロンプトが表示されます。これは SOA でも OSB でも同じです。

図 2-47 のように、Oracle ホーム・ディレクトリを入力するように求められます。

図 2-47 Oracle ホームの場所を入力するように求めるプロンプト

```

Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port <Ex:7001>: 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed <Ex: iwafjcaivp>:iwafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2): 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
Enter the Oracle Home Location <Ex C:\Middleware>: C:\oracle\PSS
  
```

これは、Oracle 12c がインストールされている場所です。

11. 適切な値を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-48 のように、ドメイン・ユーザー名およびパスワードを入力するように求められます。

図 2-48 ドメイン・ユーザー名およびパスワードの入力を求めるプロンプト

```

Please enter the name under which the ibse.var has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.var has to be deployed <Ex: iwafjcaivp>:iwafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
Enter the Oracle Home Location <Ex C:\Middleware>: C:\oracle\PS5
Enter the SOA Domain Username: weblogic
Enter the SOA Domain Password: welcome1

```

これは、ドメイン作成時に提供されたユーザー名とパスワードです。

- 適切な値を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-49 のように、入力した詳細のサマリーが表示されます。

図 2-49 デプロイメント詳細のサマリー

```

Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
Enter the Oracle Home Location <Ex C:\Middleware>: C:\oracle\PS5
Enter the SOA Domain Username: weblogic
Enter the SOA Domain Password: welcome1
Please make sure if the deployment details are correct. Press "y" to continue with the Deployment of
-----
Admin Server Listen Port - 7001
Oracle Suite - SOA
Domain Mode - Managed Mode
Adapter Deployment - IBSE and JCA
Server Name - soa_server1
Oracle Home Location - C:\oracle\PS5
Username - weblogic
Password - welcome1
-----
Enter y/n:

```

- 表示された情報が正しければ、**y** または **Y** と入力してアダプタのデプロイメントを続行します。情報が誤っている場合は、**n** または **N** と入力してプロンプトに戻り、適切な値を入力します。**E** または **e** と入力してプログラムを終了することもできます。

注意： ■サマリーに表示された情報を変更する必要がある場合は、**n** または **N** と入力すれば、値の再入力を求めるプロンプトが表示されます。

- **y** または **Y** と入力して続行すると、どのスクリプトを使用しているかに応じて、デプロイ (この例の場合)、アンデプロイまたは更新が続行されます。これ以降は、いかなるユーザー入力も手動による介入も必要ありません。
 - スクリプトの実行を停止するには、**E** または **e** と入力してプログラムを終了します。
-

次の画像は、それぞれデプロイ、アンデプロイおよび更新スクリプトの実行例を示しています。

- 図 2-50 「デプロイ・スクリプトの例」
- 図 2-51 「アンデプロイ・スクリプトの例」
- 図 2-52 「更新スクリプトの例」

図 2-50 デプロイ・スクリプトの例

```

c:\Application Adapters Deployment
Username - weblogic
Password - welcone1
-----
Enter y/n:y

CLASSPATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\sys_manifest_classpath\webl
ogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\sys_manifest_class
path\webllogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\lib\tools.jar;C:\oracle\PS5\W
LSEURU~1.3\server\lib\webllogic_sp.jar;C:\oracle\PS5\WLSEURU~1.3\server\lib\webllogi
c.jar;C:\oracle\PS5\modules\features\webllogic.server.modules_10.3.6.0.jar;C:\ora
cle\PS5\WLSEURU~1.3\server\lib\webservices.jar;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPA~1.1\l
ib\ant-all.jar;C:\oracle\PS5\modules\NETSFA~1.0_1\lib\ant-contrib.jar;C:\oracle\
PS5\jdk160_29\bin;C:\PsTools"

PATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\patch_oc
p371\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\WLSEURU~1.3\server\native\win\32;C:\or
acle\PS5\WLSEURU~1.3\server\bin;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPA~1.1\bin;C:\oracle\PS
5\JROCKI~1.0-1\jre\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\bin;C:\oracle\product\11.1.0\nd
b_1\bin;C:\Java\jdk1.6.0_29\jre;C:\PsTools;C:\Program Files\Legato\nsr\bin;C:\WI
NDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Wbem;C:\PROGRAM~1\Graphics\bin;C:\P
rogram Files\GnuWin32\bin;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\oracle\PS5\WLSEURU~1.3\s
erver\native\win\32\oc1920_8"

Your environment has been set.
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjca -source C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Applica
tionAdapters\iwafjca.rar -targets soa_server1 -deploy
<Aug 9, 2013 8:42:45 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiatin
g deploy operation for application iwafjca [archive: C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1
\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\iwafjca.rar], to soa_server1 .>
Task 9 initiated: [Deployer:149026]deploy application iwafjca on soa_server1.
Task 9 completed: [Deployer:149026]deploy application iwafjca on soa_server1.
Target state: deploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjcaivp -source C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Appl
icationAdapters\iwafjca.war -targets soa_server1 -deploy
<Aug 9, 2013 8:43:10 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiatin
g deploy operation for application iwafjcaivp [archive: C:\oracle\PS5\Oracle_S
OA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\iwafjca.war], to soa_server1 .>
Task 10 initiated: [Deployer:149026]deploy application iwafjcaivp on soa_server1
Task 10 completed: [Deployer:149026]deploy application iwafjcaivp on soa_server1
Target state: deploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name ibse -source C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Applicatio
nAdapters\ibse.war -targets soa_server1 -deploy
<Aug 9, 2013 8:43:28 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiatin
g deploy operation for application ibse [archive: C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\so
a\thirdparty\ApplicationAdapters\ibse.war], to soa_server1 .>
Task 11 initiated: [Deployer:149026]deploy application ibse on soa_server1.
Task 11 completed: [Deployer:149026]deploy application ibse on soa_server1.
Target state: deploy completed on Server soa_server1

Press any key to continue . . .

```

デプロイされたアダプタのアクティブ化も行われます。

図 2-51 アンデプロイ・スクリプトの例

```

Application Adapters Undeployment
Server Name - soa_server1
Oracle Home Location - C:\oracle\PS5
Username - weblogic
Password - welcome1

-----
Enter y/n:y
"Undeployment of adapters for SOA Managed Mode begins"

CLASSPATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\sys_manifest_classpath\webl
eblogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\sys_manifest_class
path\webllogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\lib\tools.jar;C:\oracle\PS5\W
LSERU~1.3\server\lib\webllogic_sp.jar;C:\oracle\PS5\WLSERU~1.3\server\lib\webllogi
c.jar;C:\oracle\PS5\modules\features\webllogic_server.modules_10.3.6.0.jar;C:\ora
cle\PS5\WLSERU~1.3\server\lib\webservices.jar;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPA~1.1\l
ib\ant-all.jar;C:\oracle\PS5\modules\NETSPA~1.0_1\lib\ant-contrib.jar;C:\oracle\
PS5\jdk160_29\bin;C:\PsTools"

PATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\patch_oc
p371\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\WLSERU~1.3\server\native\win32;C:\or
acle\PS5\WLSERU~1.3\server\bin;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPA~1.1\bin;C:\oracle\PS
5\JROCKI~1.0-1\jre\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\bin;C:\oracle\product\11.1.0\de
b\1\bin;C:\Java\jdk1.6.0_29\jre;C:\PsTools;C:\Program Files\Legato\ner\bin;C:\WI
NDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Wbem;C:\PROGRAM~1\Graphviz\bin;C:\P
rogram Files\GnuWin32\bin;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\oracle\PS5\WLSERU~1.3\s
erver\native\win32\oci920_8"

Your environment has been set.
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjca -targets soa_server1 -undeploy
<Aug 9, 2013 7:35:15 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng undeploy operation for application, iwafjca [archive: null], to soa_server1 .
>
Task 0 initiated: [Deployer:149026]remove application iwafjca on soa_server1.
Task 0 completed: [Deployer:149026]remove application iwafjca on soa_server1.
Target state: undeploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjcaivp -targets soa_server1 -undeploy
<Aug 9, 2013 7:35:35 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng undeploy operation for application, iwafjcaivp [archive: null], to soa_server
1 .>
Task 1 initiated: [Deployer:149026]remove application iwafjcaivp on soa_server1.
Task 1 completed: [Deployer:149026]remove application iwafjcaivp on soa_server1.
Target state: undeploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name ibse -targets soa_server1 -undeploy
<Aug 9, 2013 7:35:41 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng undeploy operation for application, ibse [archive: null], to soa_server1 .>
Task 2 initiated: [Deployer:149026]remove application ibse on soa_server1.
Task 2 completed: [Deployer:149026]remove application ibse on soa_server1.
Target state: undeploy completed on Server soa_server1

Press any key to continue . . .

```

図 2-52 更新スクリプトの例

```

Application Adapters Update
Enter y/n:y
CLASSPATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\sys_manifest_classpath\webllogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\sys_manifest_classpath\webllogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\lib\tools.jar;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\lib\webllogic_sp.jar;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\lib\webllogic.jar;C:\oracle\PS5\modules\features\webllogic_server_modules_10.3.6.0.jar;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\lib\webservices.jar;C:\oracle\PS5\modules\ORGAP~1.1\lib\ant-all.jar;C:\oracle\PS5\modules\NETSPA~1.0_1\lib\ant-contrib.jar;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\PsTools"
PATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\native\win32;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\bin;C:\oracle\PS5\modules\ORGAP~1.1\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\jre\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\bin;C:\oracle\product\11.1.0\ndb_1\bin;C:\Java\jdk1.6.0_29\jre;C:\PsTools;C:\Program Files\Legato\nsr\bin;C:\WINDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Wbem;C:\PROGRAM~1\Graphviz\bin;C:\Program Files\GnuWin32\bin;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\native\win32\oci920_8"
Your environment has been set.
webllogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username webllogic -name iwafjca -targets soa_server1 -redploy
<Aug 9, 2013 9:02:34 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiating redeploy operation for application, iwafjca [archive: null], to soa_server1.>
Task 12 initiated: [Deployer:149026]redploy application iwafjca on soa_server1.
Task 12 completed: [Deployer:149026]redploy application iwafjca on soa_server1.
Target state: redeploy completed on Server soa_server1
webllogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username webllogic -name iwafjcaivp -targets soa_server1 -redploy
<Aug 9, 2013 9:02:44 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiating redeploy operation for application, iwafjcaivp [archive: null], to soa_server1.>
Task 13 initiated: [Deployer:149026]redploy application iwafjcaivp on soa_server1.
Task 13 completed: [Deployer:149026]redploy application iwafjcaivp on soa_server1.
Target state: redeploy completed on Server soa_server1
webllogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username webllogic -name ibse -targets soa_server1 -redploy
<Aug 9, 2013 9:02:51 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiating redeploy operation for application, ibse [archive: null], to soa_server1.>
Task 14 initiated: [Deployer:149026]redploy application ibse on soa_server1.
Task 14 failed: [Deployer:149026]redploy application ibse on soa_server1.
Target state: redeploy failed on Server soa_server1
webllogic.management.DeploymentException: [Deployer:149258]Server failed to remove the staged files 'C:\oracle\PS5\user_projects\domains\base_domain\servers\soa_server1\stage\ibse\ibse.war' for application 'ibse' completely. Check the directory and make sure no other application using this directory. This will result in inappropriate results when this server gets partitioned and trying to deploy this application.
Press any key to continue . . .

```

デプロイされたアダプタのアクティブ化も行われます。

2.8 インストール後のタスク

パッケージ化されたアプリケーション・アダプタに対して、次に示すインストール後の構成タスクを実行してください。

- 2.8.1 項「エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのリスト」
- 2.8.2 項「エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー」
- 2.8.3 項「ディレクトリ構造」
- 2.8.4 項「Oracle データベース・リポジトリの構成」
- 2.8.5 項「DB2 データベース・リポジトリの構成」
- 2.8.6 項「Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリの構成」

Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft をインストールした場合は、付録 A「Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成」を参照してください。Oracle WebLogic Server Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld をインストールした場合は、付録 B「Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成」を参照してください。

注意: このガイドに記載されているディレクトリ・パスは、Windows の表記規則に従っています。たとえば、バックスラッシュ (\) が使用されています。

UNIX で Oracle WebLogic Server Application Adapter を使用する場合は、必要に応じてディレクトリ・パスを変更してください。

2.8.1 エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのリスト

この項では、次の各アダプタに必要なエンタープライズ情報システム (EIS) ライブラリ・ファイルのリストを示します。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x を使用)

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld に必要なライブラリ・ファイルのリストを示します。

J.D. Edwards OneWorld Java-based ThinNet API

この API は、J.D. Edwards OneWorld のインストール・メディア上の .jar ファイルとして配布されます。これらのライブラリは、J.D. Edwards OneWorld のリリースによって異なる場合があります。

J.D. Edwards OneWorld システムでは、これらのライブラリ・ファイルは次のフォルダにあります。

\\system\classes

XE (B7333) の場合 :

- Connector.jar
- Kernel.jar

ERP 8.0 (B7334) の場合 :

- Connector.jar
- Kernel.jar

EnterpriseOne 8.9 (B9) の場合 :

- Connector.jar
- Kernel.jar
- jdeutil.jar
- log4j.jar

EnterpriseOne 8.10 の場合 :

- Connector.jar
- Kernel.jar
- jdeutil.jar
- log4j.jar

EnterpriseOne 8.11 (SP1 および Tools リリース 8.95) の場合 :

- Base_JAR.jar
- Connector.jar

- JdeNet_JAR.jar
- log4j.jar
- System_JAR.jar

EnterpriseOne 8.12 (Tools リリース 8.96.2.0) の場合 :

- Connector.jar
- log4j.jar
- Base_JAR.jar
- EventProcessor_EJB.jar
- EventProcessor_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- System_JAR.jar

EnterpriseOne 9.0 (Tools リリース 8.98.1.3) の場合 :

- Connector.jar
- log4j.jar
- Base_JAR.jar
- EventProcessor_EJB.jar
- EventProcessor_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- System_JAR.jar
- commons-httpclient-3.0.jar
- jmxri.jar
- ManagementAgent_JAR.jar

EnterpriseOne 9.1 (Tools リリース 9.1.02) の場合 :

- Connector.jar
- Base_JAR.jar
- EventProcessor_EJB.jar
- EventProcessor_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- System_JAR.jar
- commons-httpclient-3.0.jar
- jmxri.jar
- ManagementAgent_JAR.jar
- jmxremote.jar
- jmxremote_optional.jar
- commons-logging.jar
- ApplicationAPIs_JAR.jar

J.D. Edwards OneWorld の対応するライブラリ・ファイルを、SOA または OSB 環境のアプリケーション・アダプタの lib ディレクトリとドメインの lib ディレクトリにコピーする必要があります。詳細は、2-47 ページの「[エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー](#)」を参照してください。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に必要なライブラリ・ファイルのリストを示します。

- PeopleSoft Java Object Adapter ファイル (psjoa.jar)

このファイルは、クライアント・アプリケーションと PeopleSoft との間の低レベル・インタフェースを提供します。このファイルは PeopleSoft に付属し、`PeopleSoft_home_directory/web/PSJOA` ディレクトリ内にあります。

psjoa.jar ファイルは PeopleSoft のバージョンごとに異なります。PeopleTools のリリースをアップグレードする場合は、新しいリリースの psjoa.jar ファイルを lib ディレクトリにコピーして、すべてのコンポーネントを再起動してください。

- pstools.properties

このファイルは PeopleTools 8.1x に必要です。このファイルは `PeopleSoft_home_directory/web/jmac` ディレクトリにあります。

- PeopleSoft で生成された Java API

Component Interface Java API の生成に関する詳細は、『Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

PeopleSoft アダプタのライブラリ・ファイルを、SOA または OSB 環境のアプリケーション・アダプタの lib ディレクトリとドメインの lib ディレクトリにコピーする必要があります。詳細は、2-47 ページの「エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー」を参照してください。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel に必要なライブラリ・ファイルのリストを示します。

Siebel 6.3.x 以上の場合 : Siebel Thin Client とともに .jar ファイルとして配布される Siebel Java Data Bean API

これらのライブラリは、Siebel のリリースによって内容と名前が両方とも異なります。そのため、必ずターゲット Siebel システムに付属の Siebel Thin Client をアダプタで使用する必要があります。例：

Siebel システムでは、これらのライブラリ・ファイルは次のフォルダにあります。

```
<siebel home>\siebsrvr\CLASSES
```

Siebel 6.3.x の場合：

- SiebelTcOM.jar
- SiebelTcCommon.jar
- SiebelTC_enu.jar
- SiebelDataBean.jar

Siebel 7.0.3 の場合：

- SiebelJI_Common.jar
- SiebelJI_enu.jar

Siebel 7.5.2 の場合：

- SiebelJI_Common.jar
- SiebelJI_enu.jar
- SiebelJI.jar

Siebel 7.7 - 8.0、8.2 の場合：

- SiebelJI_enu.jar

- Siebel.jar

Siebel 8.1 の場合 :

- SiebelJI.jar

- Siebel.jar

Siebel 8.2 の場合 :

- SiebelJI.jar

- Siebel.jar

Siebel COM ベース API (Windows のみ) を使用するには、Siebel Thin Client がインストールされていて Siebel アダプタにアクセス可能であることが必要です。

前出のリストに含まれる次のファイルは、英語のインストール専用です。

- SiebelTC_enu.jar

- SiebelJI_enu.jar

英語以外のインストールでは、使用される言語に応じて最後の 3 文字 (_enu) が異なります。

トランスポートとして MQ Series を使用する場合は、`com.ibm.mq.jar` ファイルを使用する必要があります。

Siebel に関して実行する必要がある他の手順は、『*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for Siebel ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

Siebel の対応するライブラリ・ファイルを、SOA または OSB 環境のアプリケーション・アダプタの lib ディレクトリとドメインの lib ディレクトリにコピーする必要があります。詳細は、2-47 ページの「*エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー*」を参照してください。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x を使用)

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x を使用) に必要なライブラリ・ファイルのリストを示します。

Windows:

- SAP Java Connector (SAP JCo) バージョン 3.0.11

- sapjco3.jar

- sapjco3.dll

Linux/Solaris/OS400:

- sapjco3.jar

- libsapjco3.so

HP-UX:

- sapjco3.jar

- libsapjco3.sl

AIX:

- sapjco3.jar

- libsapjco3.so

2.8.2 エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー

この項では、次のアダプタに関して、エンタープライズ情報システム (EIS) ライブラリ・ファイルをコピーする必要がある具体的なディレクトリについて説明します。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel

これらのアダプタの EIS ライブラリ・ファイルを、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

以降の各項で、EIS のバージョンによって異なる具体的な EIS ライブラリ・ファイルのリストを、EIS ごとに示します。

注意: EIS は、常に 1 つのバージョンのみを使用する必要があります。2 つのバージョンの EIS ライブラリ・ファイルを同時に使用しないでください。
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft および Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel を使用して一度に接続できるのは、1 つのバージョンの EIS のみです。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x を使用)

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3(SAP JCo 3.x を使用) に関して、エンタープライズ情報システム (EIS) ライブラリ・ファイルをコピーする必要がある具体的なディレクトリを説明します。

Windows:

sapjco3.jar ファイルと *sapjco3.dll* ファイルを、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

注意: *sapjco3.jar* ファイルと *sapjco3.dll* ファイルは Oracle WebLogic Server のクラスパスにも追加する必要があります。

Linux/Solaris/OS400:

sapjco3.jar ファイルと *libsapjco3.so* ファイルを、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

HP-UX:

sapjco3.jar ファイルと *libsapjco3.sl* ファイルを、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

AIX:

sapjco3.jar ファイルと *libsapjco3.so* ファイルを、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

Solaris:

SAP JCo ライブラリ・ファイルの指定方法として、次の 2 つがサポートされています。

- SAP JCo ファイル (*sapjco3.jar* および *libsapjco3.so*) を JDK フォルダ (*jdk/jre/lib/sparc/server* など) にコピーする
または
- SAP JCo ファイルを */usr/j2sdkxxxxx/jre/lib/sparcv9/server* にコピーする
xxxxx は JDK のバージョンです。

あるいは、Application Server Control コンソールを使用して、これらのファイルのパスを環境変数定義に追加することもできます。Application Server の管理オプションの詳細は、Oracle WebLogic Server 管理者ガイドを参照してください。

2.8.3 ディレクトリ構造

パッケージ化されたアプリケーション・アダプタは、Oracle WebLogic Server ホーム・ディレクトリの *ApplicationAdapters* サブディレクトリにインストールされます。そのディレクトリ構造を表 2-1 に示します。

表 2-1 パッケージ化されたアプリケーション・アダプタのディレクトリ構造

サブディレクトリ	説明
<i>_uninst</i>	アンインストール・ファイルが格納されます。
<i>etc</i>	<i>application</i> 、 <i>doc</i> 、 <i>jde</i> 、 <i>licenses</i> および <i>peoplesoft</i> フォルダと、 <i>mysap30.jar</i> ファイルおよび <i>iwse.ora</i> ファイルが格納されます。
<i>ibse.war</i>	BSE アプリケーションおよびリポジトリ構成が格納されます。
<i>iwafjca.rar</i>	J2CA アプリケーションおよびリポジトリ構成が格納されます。
<i>iwafjca.war</i>	J2CA Installation Verification Program (IVP) が格納されます。
<i>lib</i>	ライブラリ・ファイルおよび iWay アダプタ・フレームワークのファイルが格納されます。
<i>tools</i>	アプリケーション・エクスプローラのグラフィカル・ユーザー・インターフェースが格納されます。

2.8.4 Oracle データベース・リポジトリの構成

リポジトリには、構成の詳細、アダプタ・ターゲット、チャンネルおよび他の構成情報が保持されます。これらの情報は、アダプタのインストール時に、ファイル・リポジトリとともにデフォルトでインストールされます。ファイル・リポジトリは、開発、テストおよび本番環境ではサポートされません。インストール後、ただちにデータベース・リポジトリを構成することをお勧めします。

注意： Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、Oracle データベースを以前のリリースから現行リリースへ移行できます。詳細は『*Oracle Fusion Middleware Application Adapters Oracle WebLogic Server Application Adapter アップグレード・ガイド*』を参照してください。

次の操作を実行するときには、データベースについて構成したものと同一ユーザー名およびパスワードを指定する必要があります。

- SQL スクリプト *iwse.ora* の実行
- *jcattransport.properties* ファイルの構成
- *ra.xml* ファイルの構成
- BSE 構成 Web ページを使用した BSE の構成

この項では、Oracle データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。

注意： Oracle アプリケーション・アダプタは、Oracle エンタープライズ・データベースをリポジトリとして使用した場合の動作が保証されています。動作が保証されているバージョンは、Oracle Database 12c Enterprise Edition (12.1.0.1.0) です。

Oracle エンタープライズ・データベースの他のバージョンも、Oracle SOA Suite でサポートされているかぎりサポートされます。Oracle のアプリケーション・アダプタは、Oracle エンタープライズ・データベース以外のデータベース (Oracle XE、Oracle Berkeley Database など) はいっさいサポートしていません。

1. データベースがインストールされているシステムで、SQL スクリプト *iwse.ora* を実行します。

注意： *iwse.ora* スクリプトを初めて使用したときに、BSE 構成および J2CA 構成のデータベース・リポジトリが自動的に作成されます。したがって、この 2 種類の構成のためにそれぞれ *iwse.ora* スクリプトを実行する (合計 2 回) 必要はありません。このスクリプトを 2 回以上使用すると、BSE リポジトリと J2CA リポジトリが再作成され、最初のデータベース・リポジトリに保存されていた値は削除されます。

SQL スクリプト *iwse.ora* は、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\etc
```

このスクリプトは、データベースにアダプタ構成情報を保存するために必要な表を作成します。これらの表は、アプリケーション・エクスプローラおよびアダプタによって、設計時と実行時に使用されます。データベース・リポジトリを作成するときと、*ra.xml* ファイル (J2CA 構成) で、データベース・ユーザー資格証明として同じ資格証明を使用することをお勧めします。

コマンド・プロンプトを開き、インストールされているアダプタに基づいて次のディレクトリまでナビゲートし、*sqlplus* と入力します。

ユーザー名とパスワードを入力し、表作成の対象となるユーザーとして接続します。

次のように `iwse.ora` スクリプト・ファイルを実行します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc>sqlplus
```

```
SQL*Plus: Release 12.1.0.1.0 Production  
Copyright (c) 1982, 2013, Oracle. All rights reserved.
```

```
Enter user-name: scott
```

```
Enter password:
```

```
Connected to:
```

```
Oracle Database 12c Enterprise Edition Release 12.1.0.1.0 - 64bit Production  
With the Partitioning, OLAP, Advanced Analytics and Real Application Testing  
options
```

```
SQL>@ iwse.ora
```

2. `ojdbc7.jar` ファイルを、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

`ojdbc7.jar` ファイルは次のディレクトリにあります。

```
<Oracle_dbhome_1>\jdbc\lib
```

3. `ojdbc7.jar` ファイルを認識させるために、Oracle WebLogic Server を再起動します。

J2CA リポジトリの構成

J2CA リポジトリを構成するには、さらに次の手順を実行する必要があります。

1. `jcatransport.properties` ファイルを作成し、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリに保存します。

```
<ADAPTER_HOME>\config\J2CA_SampleConfig
```

注意： `jcatransport.properties` ファイルは、アプリケーション・エクスプローラで作成した各 J2CA 構成ごとに必要です。J2CA 構成フォルダ (例 : `J2CA_SampleConfig`) には、アプリケーション・エクスプローラで指定した構成名に基づいて名前が付けられます。

2. 新規作成した `jcatransport.properties` ファイルで、次の例のように `iwafjca.repo.driver`、`iwafjca.repo.url`、`iwafjca.repo.user` および `iwafjca.repo.password` フィールドの値を入力します。

```
iwafjca.repo.driver= oracle.jdbc.driver.OracleDriver
```

```
iwafjca.repo.url=jdbc:oracle:thin:@90.0.0.51:1521:orcl
```

```
iwafjca.repo.user=scott
```

```
iwafjca.repo.password=scott1
```

`iwafjca` のパラメータとその説明を次の表に示します。

パラメータ	説明
<code>iwafjca.repo.driver</code>	データベースへの接続を開くときに使用するドライバ・クラスを指定します。たとえば、Oracle に接続するときには次のリポジトリ・ドライバ書式を使用します。 <code>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</code>
<code>iwafjca.repo.url</code>	データベースへの接続を開くときに使用する URL を入力します。たとえば、Oracle に接続するときには次の URL 書式を使用します。 <code>jdbc:oracle:thin:@host name:port:SID</code>
<code>iwafjca.repo.user</code>	データベース・リポジトリを構成するために SQL スクリプト <code>iwse.ora</code> を実行したときに指定したものと同一ユーザー ID を入力します。
<code>iwafjca.repo.password</code>	データベース・リポジトリを構成するために SQL スクリプト <code>iwse.ora</code> を実行したときに指定したものと同一パスワードを入力します。

3. SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにナビゲートします。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar\META-INF
```

4. `ra.xml` ファイルをテキスト・エディタで開きます。

5. `IWAYRepoDriver` プロパティに、ステップ 2 で `jcatransport.properties` ファイルに対して指定したリポジトリ・ドライバの値を指定します。

6. `IWAYRepoURL` プロパティに、ステップ 2 で `jcatransport.properties` ファイルに対して指定した JDBC 接続情報を値として指定します。

7. `IWAYRepoUser` プロパティに、ステップ 2 で `jcatransport.properties` ファイルに対して指定した有効なユーザー名を指定します。

8. `IWAYRepoPassword` プロパティに、ステップ 2 で `jcatransport.properties` ファイルに対して指定した有効なパスワードを指定します。

例：

```
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoDriver</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoURL</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>jdbc:oracle:thin:@192.168.128.167.1521:orcl</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoUser</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>scott</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoPassword</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>scott1</config-property-value>
</config-property>
```

9. `ra.xml` ファイルに対する変更を保存します。

- Oracle WebLogic Server を再起動し、*iwafjca.rar* ファイルと *iwafjca.war* ファイルを再デプロイします。

これで、J2CA 構成用の Oracle リポジトリのインストールと構成が完了しました。

BSE リポジトリの構成

BSE リポジトリを構成するには、さらに次の手順を実行する必要があります。

- Web ブラウザで BSE 構成ページを開きます。

`http://host name:port/ibse/IBSEConfig`

host name は BSE がインストールされているシステムで、*port* は BSE がリスニングするポートの番号です。

注意： BSE のデプロイ先のサーバーは稼働している必要があります。

図 2-53 のように、BSE 設定ペインが表示されます。

図 2-53 BSE 設定ペイン

Property Name	Property Value
System	
Language	English
Adapter Lib Directory	../../../../base_domain/lib
Encoding	UTF-8
Debug Level	DEBUG
Number of Async. Processors	0

- システム設定を構成します。

各システム・パラメータとその説明を次の表に示します。

パラメータ	説明
言語	必要な言語を指定します。
アダプタ・ライブラリ・ディレクトリ	アダプタの jar ファイルがあるディレクトリのフルパスを入力します。
エンコーディング	UTF-8 のみがサポートされています。
デバッグ・レベル	次のオプションからデバッグ・レベルを選んで指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ なし ■ 致命的 ■ エラー ■ 警告 ■ 情報 ■ デバッグ
非同期プロセッサの数	非同期プロセッサの数を選択します。

3. 図 2-54 のように、リポジトリ設定を構成します。

図 2-54 リポジトリ設定ペイン

Repository

Repository Type: File System

Repository Url: file://C:\oracle\Middleware\home_03

Repository Driver:

Repository User:

Repository Password:

Repository Pooling:

Save

4. リポジトリ設定を構成します。

BSE では、Web サービスの配信に必要なトランザクションおよびメタデータをリポジトリに保存する必要があります。

各リポジトリ・パラメータとその説明を次の表に示します。

パラメータ	説明
リポジトリ・タイプ	次のリポジトリ・リストから Oracle を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ■ DB2 ■ ファイル・システム (本番環境では BSE に使用しないでください。) ■ SQL Server
リポジトリ URL	データベースへの接続を開くときに使用する URL を入力します。たとえば、Oracle に接続するときには次の URL 書式を使用します。 jdbc:oracle:thin:@host name:port:SID
リポジトリ・ドライバ	データベースへの接続を開くときに使用するドライバ・クラスを指定します (オプション)。たとえば、Oracle に接続するときには次のリポジトリ・ドライバ書式を使用します。 oracle.jdbc.driver.OracleDriver
リポジトリ・ユーザー	データベース・リポジトリを構成するために SQL スクリプト <i>iwse.ora</i> を実行したときに指定したものと同一ユーザー ID を入力します。
リポジトリ・パスワード	データベース・リポジトリを構成するために SQL スクリプト <i>iwse.ora</i> を実行したときに指定したものと同一パスワードを入力します。
リポジトリ・プーリング	選択するとリポジトリ・プーリングが使用されます。このオプションはデフォルトで無効になっています。

5. 「保存」をクリックします。
6. Oracle WebLogic Server を再起動します。

これ以降の Oracle Fusion Middleware Application Adapters での作業に関する詳細は、対応するアダプタのユーザー・ガイドを参照してください。

2.8.5 DB2 データベース・リポジトリの構成

リポジトリには、構成の詳細、アダプタ・ターゲット、チャンネルおよび他の構成情報が保持されます。これらの情報は、アダプタのインストール時に、ファイル・リポジトリとともにデフォルトでインストールされます。ファイル・リポジトリは、開発、テストおよび本番環境ではサポートされません。インストール後、ただちにデータベース・リポジトリを構成することをお勧めします。

注意： Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、DB2 データベースを以前のリリースから現行リリースへ移行できます。詳細は『*Oracle Fusion Middleware Application Adapters Oracle WebLogic Server Application Adapter アップグレード・ガイド*』を参照してください。

この項では、DB2 データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- 2.8.5.1 項「サポートされる DB2 のバージョン」
- 2.8.5.2 項「使用上の留意事項」
- 2.8.5.3 項「前提条件」
- 2.8.5.4 項「DB2 データベース・リポジトリの作成」
- 2.8.5.5 項「J2CA リポジトリの構成」
- 2.8.5.6 項「BSE リポジトリの構成」

2.8.5.1 サポートされる DB2 のバージョン

IBM-AIX プラットフォーム上の DB2 Enterprise Server Edition バージョン 9.7 および 10.1 のみがサポートされます。これ以外のバージョンの DB2 とオペレーティング・システム (IBM-AIX 以外) はサポートされません。

2.8.5.2 使用上の留意事項

この項では、MS SQL Server データベース・リポジトリの使用に関する留意事項を示します。

1. 以前にファイル・リポジトリまたは Oracle データベース・リポジトリを使用していて、新たに DB2/SQL Server リポジトリをインストールおよび構成した場合は、パラメータの構成を Oracle データベース・リポジトリに戻せば、以前に構成したリポジトリにアクセスできるようになります (データベースにいっさい変更が加えられていなければ)。それ以外の場合は、次のコマンドにより移行ユーティリティを使用してデータベース・リポジトリのコピーを作成し、いつでも必要なときにそのコピーをデータベースにロードできます。

```
jcaupd copy jca_sample -jdbc oracle.jdbc.driver.OracleDriver
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl scott Scott123 -file jca_repository.xml
```

ファイル・リポジトリの場合は、再利用のために repository.xml のバックアップを作成する必要があります。

2. ra.xml ファイルおよび jcatransport.properties ファイル内にあるデフォルトのパラメータ値は使用しないでください。環境に合わせてこれらのパラメータ値を変更する必要があります。

2.8.5.3 前提条件

前提条件として、DB2 データベース・リポジトリを構成する前に次の手順を完了する必要があります。

1. アプリケーション・エクスプローラが閉じていることを確認します。
2. ibse.war、iwafjca.rar および iwafjca.war ファイルがすでにデプロイされている場合は、これらのファイルをアンデプロイします。

3. Oracle WebLogic Server がシャットダウンされていることを確認します。
4. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイルを入手します。

DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイルは `db2jcc_license_cu.jar` と `db2jcc.jar` です。DB2 用 JDBC ドライバ・ファイルは、通常は次のいずれかのディレクトリにあります (インストレーションにより異なります)。

```
$DB2_home/sqlllib/lib
$DB2_home/sqlllib/java
```

2.8.5.4 DB2 データベース・リポジトリの作成

この項では、DB2 データベース・リポジトリを作成する方法を説明します。

1. データベース・スクリプト `iwse.db2` が、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにあることを確認します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc
```

2. コマンド・プロンプトを開き、このディレクトリへナビゲートします。
3. 次のコマンドを使用して DB2 データベースに接続します。

```
db2 connect to DATABASE user USERNAME using PASSWORD
```

例:

```
$ db2 connect to orcl user db2 using 11unix
```

注意: 使用するユーザー ID およびパスワードに、データベースに対する読取り/書込み権限があることを確認してください。このユーザー名およびパスワードは J2CA および BSE リポジトリ構成プロセスで必要になるため、メモしておいてください。

4. 次のコマンドを使用して、データベース・スクリプト `iwse.db2` を実行します。

```
db2 -vtf iwse.db2
```

注意: このスクリプトを初めて実行するときには表が存在しないため、DROP TABLE 文からのエラー・メッセージが生成されます。これらのエラー・メッセージは無視してかまいません。

次のサンプル構文は、コマンド・プロンプトでデータベース・スクリプト `iwse.db2` がどのように実行されるかを示しています。

```
<ADAPTER_HOME>\etc
```

```
$ db2 connect to orcl user db2 using 11unix
```

```
Database Connection Information
Database server          = DB2/AIX64 9.5.5
SQL authorization ID    = DB2
Local database alias    = ORCL
$db2 -vtf iwse.db2
```

```
-----
DROP TABLE IBS_OBJECT
DB21034E The command was processed as an SQL statement because it was not a
```

valid Command Line Processor command. During SQL processing it returned:
SQL0204N "DB2.IBS_OBJECT" is an undefined name. SQLSTATE=42704

注意：データベース・スクリプト *iwse.db2* は、多くの DROP コマンドおよび CREATE コマンドを連続して実行します。各コマンドが正常に完了するたびに、その SQL コマンドが正常に完了したことを知らせるメッセージが生成されます。

5. すべてのコマンドが正常に実行されたことを確認します。

すべてのコマンドが正常に実行されたら、2-56 ページの 2.8.5.5 項「J2CA リポジトリの構成」または 2-58 ページの 2.8.5.6 項「BSE リポジトリの構成」へ進んでください。

注意：データベース・スクリプト *iwse.db2* を実行すると、J2CA 構成および BSE 構成が作成されます。

2.8.5.5 J2CA リポジトリの構成

この項では、J2CA 用の DB2 データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。

1. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイル (*db2jcc_license_cu.jar* および *db2jcc.jar*) を、SOA/OSB の次のアダプタ・インストールディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar
```

2. *jcatransport.properties* という名前のテキスト・ファイルを J2CA 構成フォルダの下に作成します。

J2CA 構成フォルダは、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\config
```

J2CA 構成フォルダには、アプリケーション・エクスプローラで新規 J2CA 構成を作成したときに指定した名前が使用されます。

たとえば、*jca_sample* という名前の J2CA 構成を作成した場合は、次のディレクトリ内に *jca_sample* フォルダが作成されます。

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

J2CA 構成フォルダにナビゲートした後、次の手順を実行します。

- a. *jcatransport.properties* という名前のテキスト・ファイルを作成します。
- b. 次の各パラメータを入力し、対応する値を指定します。

iwafjca.repo.driver - DB2 データベース用の JDBC ドライバ・クラス

iwafjca.repo.url - JDBC URL

iwafjca.repo.user - DB2 データベースのユーザー名

iwafjca.repo.password - DB2 データベースのユーザー・パスワード

例：

```
iwafjca.repo.driver=com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
iwafjca.repo.url=jdbc:db2://172.30.163.197:60000/orcl
iwafjca.repo.user=db2
iwafjca.repo.password=11unix
```

注意: *iwse.db2* スクリプトを実行するときには、DB2 リポジトリを作成するときに指定したものと同一ユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。*.zip* アーカイブ・ファイルにパッケージ化されている *jcatransport.properties* ファイルを参照してください。

- c. *jcatransport.properties* ファイルを J2CA 構成フォルダの下に保存します。
例:

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

J2CA 構成の名前が異なる場合は、ファイルを適切なフォルダに保存してください。ファイル名は *jcatransport.properties* にする必要があります。このファイルに別の名前を付けると、J2CA コネクタの動作が不安定になります。

- d. 複数の J2CA 構成を使用している場合は、各構成に対してそれぞれ個別の *jcatransport.properties* ファイルを作成して各 J2CA 構成フォルダに保存する必要があります。
3. 次のディレクトリにある *ra.xml* ファイルに変更を加え、適切なデータベース・リポジトリ・パラメータを指定します。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar/META-INF
```

- a. *ra.xml* ファイルをエディタで開きます。
- b. *IWayRepoURL*、*IWayRepoUser* および *IWayRepoPassword* 要素の値を変更します。
例:

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoURL</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>jdbc:db2://172.30.163.197:60000/orcl@driverType=JCC
</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoUser</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>db2</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoPassword</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>11unix</config-property-value>
</config-property>
```

注意: *iwse.db2* スクリプトを実行するときには、DB2 リポジトリを作成するときに指定したものと同一ユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。*.zip* アーカイブ・ファイルにパッケージ化されている *ra.xml* ファイルを参照してください。

- c. *ra.xml* ファイルを保存します。
- d. Oracle WebLogic Server を再起動し、*iwafjca.rar* ファイルと *iwafjca.war* ファイルを再デプロイします。

これで、J2CA 構成用の DB2 リポジトリのインストールと構成が完了しました。

2.8.5.6 BSE リポジトリの構成

この項では、BSE 用の DB2 データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。

1. *ibse.war* ファイルがアンデプロイされていることと、Oracle WebLogic Server が停止していることを確認します。

2. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイル (*db2jcc_license_cu.jar* および *db2jcc.jar*) を、SOA/ OSB の次のアダプタ・インストールディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\lib
```

3. Oracle WebLogic Server を起動し、管理コンソールを使用して *ibse.war* ファイルをデプロイします。

4. Web ブラウザで BSE 構成ページを開きます。

```
http://host name:port/ibse/IBSEConfig
```

host name は BSE がインストールされているシステムで、*port* は BSE がリスニングするポートの番号です。

注意： BSE のデプロイ先のサーバーは稼働している必要があります。

5. リポジトリ・タイプとして *db2* を選択し、各パラメータに適切な値を入力します。

```
jdbc:db2://[host]:[port]/database
```

host はデータベースがインストールされているサーバーの名前、*port* はデータベース・ポート、*database* はデータベース名です。

6. 次の各パラメータを入力し、対応する値を指定します。

リポジトリ URL - リポジトリの JDBC URL。例：

```
jdbc:db2://172.30.163.197:60000/orcl
```

リポジトリ・ドライバ - DB2 データベース用の JDBC ドライバ・クラス 例：

```
com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
```

リポジトリ・ユーザー - データベースのユーザー名

リポジトリ・パスワード - ユーザーのパスワード

注意： *iwse.db2* スクリプトを実行するときには、DB2 リポジトリを作成するときに指定したものと同一ユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。

7. 「保存」をクリックします。

8. Oracle WebLogic Server を再起動します。

これで、BSE 構成用の DB2 リポジトリのインストールと構成が完了しました。

2.8.6 Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリの構成

リポジトリには、構成の詳細、アダプタ・ターゲット、チャンネルおよび他の構成情報が保持されます。これらの情報は、アダプタのインストール時に、ファイル・リポジトリとともにデフォルトでインストールされます。ファイル・リポジトリは、開発、テストおよび本番環境ではサポートされません。インストール後、ただちにデータベース・リポジトリを構成することをお勧めします。

この項では、Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。次のトピックが含まれます。

- [2.8.6.1 項「サポートされる MS SQL Server のバージョン」](#)
- [2.8.6.2 項「使用上の留意事項」](#)
- [2.8.6.3 項「前提条件」](#)
- [2.8.6.4 項「MS SQL Server データベース・リポジトリの作成」](#)
- [2.8.6.5 項「J2CA リポジトリの構成」](#)
- [2.8.6.6 項「BSE リポジトリの構成」](#)

2.8.6.1 サポートされる MS SQL Server のバージョン

Windows プラットフォーム上の MS SQL Server Windows 2008 のみがサポートされます。これ以外のバージョンの MS SQL Server とオペレーティング・システム (Windows 以外) はサポートされません。

2.8.6.2 使用上の留意事項

この項では、MS SQL Server データベース・リポジトリの使用に関する留意事項を示します。

1. 以前にファイル・リポジトリまたは Oracle データベース・リポジトリを使用していて、新たに DB2/SQL Server リポジトリをインストールおよび構成する場合は、パラメータの構成を Oracle データベース・リポジトリに戻せば、以前に構成したリポジトリにアクセスできるようになります (データベースにいっさい変更が加えられていなければ)。それ以外の場合は、次のコマンドにより移行ユーティリティを使用してデータベース・リポジトリのコピーを作成し、必要に応じてそのコピーをデータベースにロードしてください。

```
jcaupd copy jca_sample -jdbc oracle.jdbc.driver.OracleDriver
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl scott Scott123 -file jca_repository.xml
```

ファイル・リポジトリの場合は、再利用のために `repository.xml` のバックアップを作成する必要があります。

2. `ra.xml` ファイルおよび `jcatransport.properties` ファイル内にあるデフォルトのパラメータ値は使用しないでください。環境に合わせてこれらのパラメータ値を変更する必要があります。

2.8.6.3 前提条件

前提条件として、MS SQL Server データベース・リポジトリを構成する前に次の手順を完了する必要があります。

1. MS SQL Server データベースですでにデータベースが作成されていて使用可能であることを確認します。
2. アプリケーション・エクスプローラが閉じていることを確認します。
3. `ibse.war`、`iwafjca.rar` および `iwafjca.war` ファイルがすでにデプロイされている場合は、これらのファイルをアンデプロイします。
4. Oracle WebLogic Server がシャットダウンされていることを確認します。
5. MS SQL Server 2008 データベース用の JDBC ドライバである `sqljdbc4.jar` ファイルを入手します。MS SQL Server 用 JDBC ドライバ・ファイルは、通常は次のいずれかのディレクトリにあります (インストールにより異なります)。

```
c:\<MS-SQL_SERVER_home>/sqllib/lib
c:\<MS-SQL_SERVER_home>/sqllib/java
```

2.8.6.4 MS SQL Server データベース・リポジトリの作成

この項では、MS SQL Server データベース・リポジトリを作成する方法を説明します。

1. データベース・スクリプト *iwse.sql* が、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにあることを確認します。
`<ADAPTER_HOME>\etc`
2. SQL Management Studio を開き、データベース・エンジンに接続します。
3. 「Databases」を展開し、スクリプトの実行対象となるデータベースを選択します。
4. データベースを右クリックして「New Query」を選択します。
5. 開いたウィンドウで、*iwse.sql* ファイルからスクリプト全体をコピーして貼り付け、「Execute」ボタンをクリックします。
6. 実行が終わると、コマンドが正常に実行されたことを知らせるメッセージが表示されます。

2.8.6.5 J2CA リポジトリの構成

この項では、J2CA 用の MS SQL Server データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。

1. MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・ファイル *sqljdbc4.jar* を、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。
`<ADAPTER_HOME>\lib`
`<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar`
2. *jcatransport.properties* という名前のテキスト・ファイルを J2CA 構成フォルダの下に作成します。

J2CA 構成フォルダは、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\config
```

J2CA 構成フォルダには、アプリケーション・エクスプローラで新規 J2CA 構成を作成したときに指定した名前が使用されます。

たとえば、*jca_sample* という名前の J2CA 構成を作成した場合は、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリ内に *jca_sample* フォルダが作成されます。

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

J2CA 構成フォルダにナビゲートした後、次の手順を実行します。

- a. *jcatransport.properties* ファイルを編集します。
- b. 次の各パラメータを入力し、対応する値を指定します。

iwafjca.repo.driver - MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・クラス

iwafjca.repo.url - JDBC URL

iwafjca.repo.user - MS SQL Server データベースのユーザー名

iwafjca.repo.password - MS SQL Server データベースのユーザー・パスワード

例：

```
iwafjca.repo.driver=com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
```

```
iwafjca.repo.url=jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=SQLRepository
```

```
iwafjca.repo.user=sa
iwafjca.repo.password=Welcome123
```

注意: *iwse.sql* スクリプトを実行するときには、MS SQL Server リポジトリを作成するときに指定したものと同一ユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。

- c. *jcatransport.properties* ファイルを J2CA 構成フォルダの下に保存します。
例:

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

J2CA 構成の名前が異なる場合は、ファイルを適切なフォルダに保存してください。ファイル名は *jcatransport.properties* にする必要があります。このファイルに別の名前を付けると、J2CA コネクタの動作が不安定になります。

- d. 複数の J2CA 構成を使用している場合は、各構成に対してそれぞれ個別の *jcatransport.properties* ファイルを作成して各 J2CA 構成フォルダに保存する必要があります。
3. 次のディレクトリにある *ra.xml* ファイルに変更を加え、適切なデータベース・リポジトリ・パラメータを指定します。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar\META-INF
```

- a. *ra.xml* ファイルをエディタで開きます。
- b. *IWayRepoDriver*、*IWayRepoURL*、*IWayRepoUser* および *IWayRepoPassword* 要素の値を変更します。例:

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoDriver</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoURL</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=SQLRepository</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoUser</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>sa</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoPassword</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>Welcome123</config-property-value>
</config-property>
```

注意: *iwse.sql* スクリプトを実行するときには、MS SQL Server リポジトリを作成するときに指定したものと同一ユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。

- c. *ra.xml* ファイルを保存します。

- d. Oracle WebLogic Server を再起動し、*iwafjca.rar* ファイルと *iwafjca.war* ファイルを再デプロイします。

これで、J2CA 構成用の MS SQL Server リポジトリのインストールと構成が完了しました。

2.8.6.6 BSE リポジトリの構成

この項では、BSE 用の MS SQL Server データベース・リポジトリを構成する方法を説明します。

1. *ibse.war* ファイルがアンデプロイされていることと、Oracle WebLogic Server が停止していることを確認します。
2. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイル *sqljdbc4.jar* を、SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\lib
```

3. Oracle WebLogic Server を起動し、管理コンソールを使用して *ibse.war* ファイルをデプロイします。
4. Web ブラウザで BSE 構成ページを開きます。

```
http://host name:port/ibse/IBSEConfig
```

host name は BSE がインストールされているシステムで、*port* は BSE がリスニングするポートの番号です。

5. リポジトリ・タイプとして *SQL Server* を選択し、各パラメータに適切な値を入力します。
6. 次の各パラメータを入力し、対応する値を指定します。

リポジトリ URL - リポジトリの JDBC URL。例：

```
jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=SQLRepository
```

リポジトリ・ドライバ - MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・クラス 例：

```
com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
```

リポジトリ・ユーザー - データベースのユーザー名

リポジトリ・パスワード - ユーザーのパスワード

MS SQL Server データベース用の BSE リポジトリ構成のサンプルを [図 2-55](#) に示します。

図 2-55 BSE リポジトリ構成ダイアログ

7. 「保存」をクリックします。
8. Oracle WebLogic Server を再起動します。

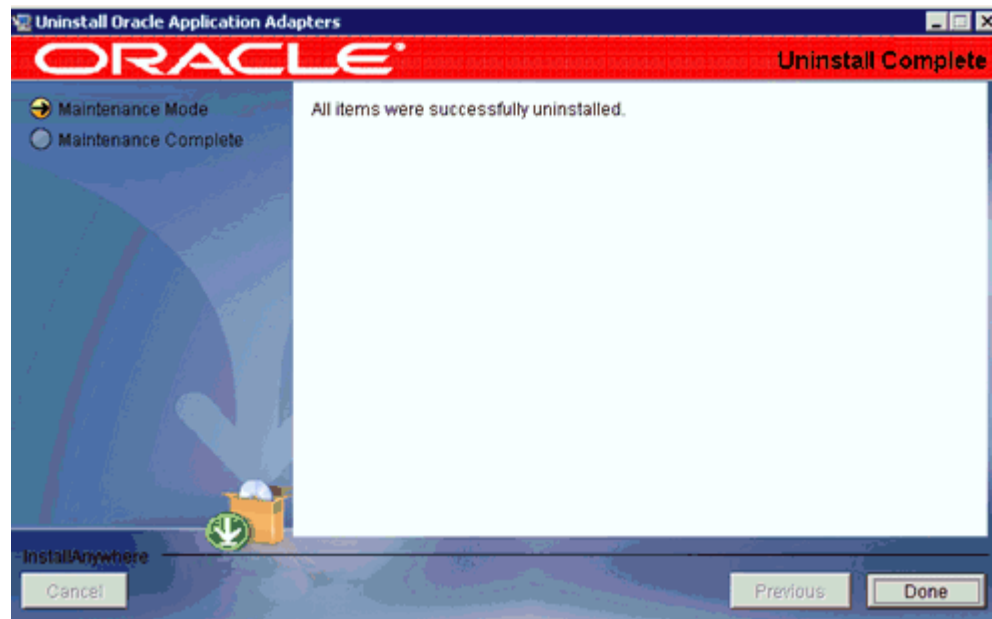
これで、BSE 構成用の MS SQL Server リポジトリのインストールと構成が完了しました。

2.9 Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアンインストール

Windows または UNIX/Linux プラットフォームで Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにナビゲートします。
`<ADAPTER_HOME>_Oracle_Application_Adapters_Uninstallation`
2. `uninstaller.exe` ファイルをダブルクリックします。
 他のプラットフォームの場合は、そのプラットフォーム固有のアンインストーラ・ファイルをターミナルから実行します。AIX プラットフォームの場合は、`uninstaller.jar` を使用します。
 「メンテナンス・モード」画面が表示されます。
3. 「次へ」をクリックして「アンインストール」をクリックします。
 アンインストール・プロセスが開始されます。
4. アンインストールが完了したら、アンインストールの成功を知らせるメッセージが表示されたことを確認し、図 2-56 に示すように「終了」をクリックします。

図 2-56 「アンインストール完了」画面



注意： アンインストーラで削除されるのは、インストール時に作成されたフォルダおよびファイルのみです。インストール後に作成したフォルダやファイルは手動で削除する必要があります。

2.9.1 サイレント・アンインストーラの使用法

Windows または UNIX/Linux プラットフォームで、サイレント・アンインストーラを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. SOA/OSB の次のアダプタ・インストール・ディレクトリにナビゲートします。
`<ADAPTER_HOME>_Oracle_Application_Adapters_Uninstallation`
2. 次のコマンドを実行します。
`Oracle_Application_Adapters_Uninstallation.exe -i silent`
3. アンインストールが完了したら、Oracle Fusion Middleware Application Adapters が正しくアンインストールされたことを確認します。

注意： アンインストーラで削除されるのは、インストール時に作成されたフォルダおよびファイルのみです。インストール後に作成したフォルダやファイルは手動で削除する必要があります。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成

この付録では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成方法を説明します。内容は次のとおりです。

- [A.1 項「PeopleSoft のバージョンの指定」](#)
- [A.2 項「アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール」](#)
- [A.3 項「PeopleTools のアップグレード」](#)

A.1 PeopleSoft のバージョンの指定

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft では、複数のバージョンの PeopleSoft がサポートされます。ただし、一部のバージョン同士は互換性がないため、使用中のバージョンをアダプタに認識させる必要があります。

インストール後、PeopleTools 8.4x リリースの *iwpsci84.jar* ファイルがデフォルト・ディレクトリに配置されます。例：

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

PeopleTools 8.1x リリースの *iwpsci81.jar* ファイルは、次のディレクトリに配置されます。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft
```

Windows 以外のシステムでは、対応するディレクトリを使用します。

アダプタを正しく機能させるには、使用するリリースに対応するファイルを使用してください。

- PeopleSoft 8.4x リリースの場合は、*iwpsci84.jar* を使用します。
- PeopleSoft 8.1x リリースの場合は、*iwpsci84.jar* を削除して、次の場所から *iwpsci81.jar* をコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft
```

コピー先：

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar
```

lib ディレクトリの内容を変更した後、すべてのコンポーネント（たとえば、アプリケーション・エクスプローラおよび SOA サーバー）を再起動します。

A.2 アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft には、2つのカスタム・コンポーネント・インタフェースが含まれています。Oracle WebLogic Server アダプタ・アプリケーション・エクスプローラでは、これらのコンポーネント・インタフェースを使用してイベントおよびサービスのスキーマを作成します。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft のコンポーネント・インタフェースを構成するには、次の項を参照してください。

1. [A.2.1 項「コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド」](#)
2. [A.2.2 項「コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成」](#)
3. [A.2.3 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターのインストール」](#)

A.2.1 コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft で提供されるコンポーネント・インタフェースは、次の PeopleSoft プロジェクトを介して配布されます。

- PeopleSoft リリース 8.4 の場合、`iwpsci84.zip` にパッケージされている `IWY_CI_84` プロジェクトです。
- PeopleSoft リリース 8.1 の場合、`iwpsci81.zip` にパッケージされている `IWY_CI_84` プロジェクトです。

これらのファイルのデフォルト・ディレクトリは、次のとおりです。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft
```

コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド

`IWY_CI_81` または `IWY_CI_84` プロジェクトを PeopleSoft にインポートする手順：

1. `iwpsci81.zip` または `iwpsci84.zip` を任意のディレクトリに解凍します。
解凍処理によって独自のサブディレクトリが作成されます。たとえば、`c:\temp` にファイルを抽出した場合は、`c:\temp\IWY_CI_81` または `c:\temp\IWY_CI_84` が作成されます。
2. PeopleSoft アプリケーション・デザイナを 2 層モードで起動します。
3. 次の手順でコピー元ファイル・プロジェクト選択ダイアログを開きます。
 - PeopleSoft 8.4 の場合は、ツール・メニューから「プロジェクトをコピー」→「コピー元ファイル」を選択します。
 - PeopleSoft 8.1 の場合は、ファイル・メニューから「ファイルからプロジェクトをコピー」を選択します。


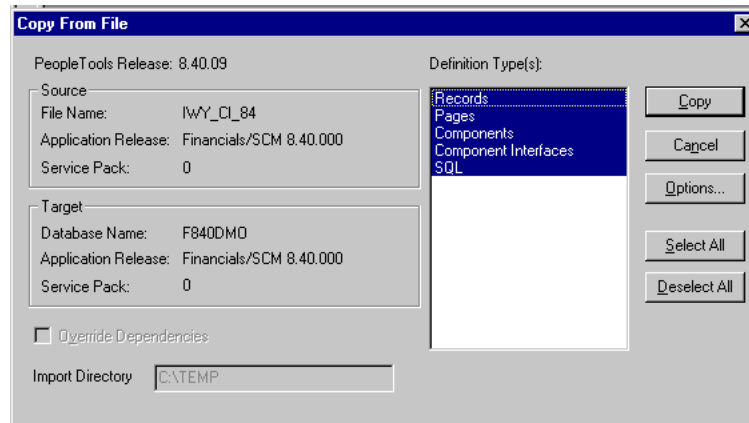
 [図 A-1](#) のようにファイルからプロジェクトをコピー・ダイアログが表示されます。
4. ファイルを解凍した元のディレクトリにナビゲートします。

図 A-1 コピー元ファイル・ダイアログ



5. 「開く」(リリース 8.4) または「コピー」(リリース 8.1) をクリックしてコピー元ファイル・ダイアログを開きます。

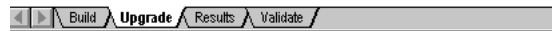
注意: 前出の図は PeopleSoft リリース 8.4 の画面を表していますが、それぞれの説明はリリース 8.1 および 8.4 に正確に対応しています。

6. 定義タイプに表示されているすべてのオブジェクトを強調表示して「コピー」をクリックします。

図 A-2 のように、正常に完了したことを示すメッセージがアプリケーション・デザイナーに表示されます。

図 A-2 アプリケーション・デザイナーのメッセージ

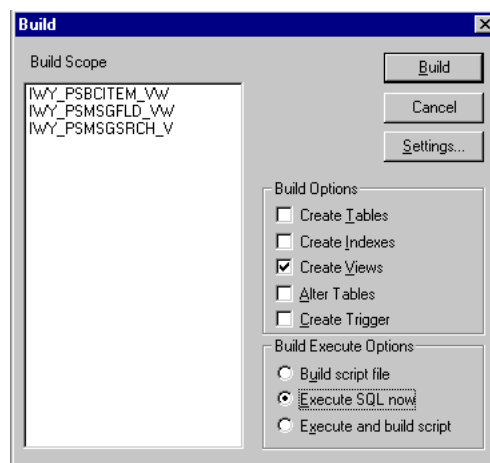
```
Components Application Upgrade Copy ended: 2002-10-21-13.01.38 (62.21)
Component Interfaces Application Upgrade Copy started: 2002-10-21-13.01.38 (62.6)
Component Interfaces Application Upgrade Copy ended: 2002-10-21-13.01.39 (62.21)
SQL Application Upgrade Copy started: 2002-10-21-13.01.39 (62.6)
SQL Application Upgrade Copy ended: 2002-10-21-13.01.40 (62.21)
```



7. プロジェクトのビューを作成するには、「作成」→「プロジェクト」を選択します。

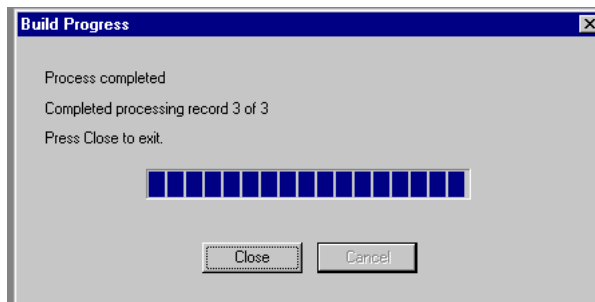
図 A-3 のように作成ダイアログが表示されます。

図 A-3 作成ダイアログ



8. 作成オプション・ペインで「ビューの作成」を選択します。
9. 作成実行オプション・ペインでユーザー・サイトで使用するオプションを選択します（前出の図では「SQLを今すぐ実行」が選択されています）。
10. 「作成」をクリックします。
 A-4 のように、アプリケーション・デザイナーに作成の進行状況ステータス・ウィンドウが表示されます。

図 A-4 作成進行状況ステータス



ネイティブの SQL ツールを使用して、生成されたビューからレコードを表示すると、ビューが正しく作成されたことを確認できます。

11. ビューが正しく作成されていない場合は、「閉じる」をクリックして SQL 作成ログ文をダブルクリックします。
 A-5 のように PSBUILD ログ・ファイルが表示されます。

図 A-5 PSBuild ログ・ファイル

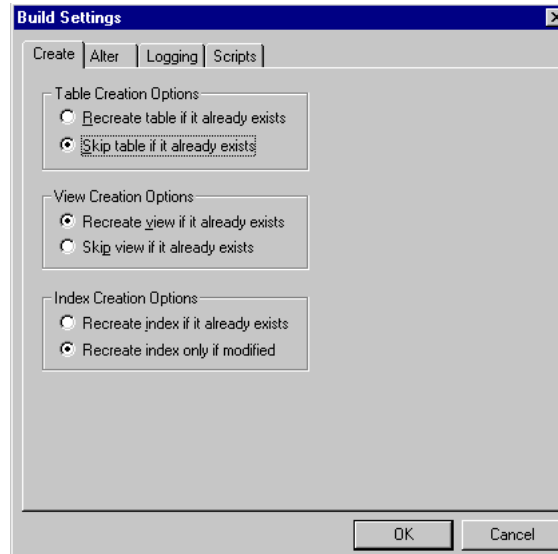
```

Psbuild.log - Notepad
File Edit Search Help
SQL Build process began on 11/5/02 at 10:29:20 AM for database F840DM0.

SQL Build process ended on 11/5/02 at 10:29:22 AM.
3 records processed, 0 errors, 0 warnings.
SQL executed online.
SQL Build log file written to C:\TEMP\PSBUILD.LOG.
    
```

12. 問題が発生した場合は、「作成」→「設定」を選択して、作成設定オプションを確認します。
 A-6 のように作成ダイアログが表示されます。

図 A-6 作成設定ダイアログ



PeopleSoft のアプリケーション・サーバー・データベースによっては、一部のデータベースで表領域名が必要になる場合があります。この機能に関する詳細は、PeopleSoft データベース管理者に問い合わせてください。

これで、コンポーネント・インタフェースのインポートと作成が終了しました。コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成方法は、「[コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成](#)」A-5 ページを参照してください。

A.2.2 コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成

アプリケーション・エクスプローラには、前述の手順でインポートし、作成したカスタムのコンポーネント・インタフェースが必要です。すべての PeopleSoft オブジェクトと同様に、セキュリティは権限リスト・レベルで割り当てられます。サイトのセキュリティ要件を確認してアプリケーション・エクスプローラを使用するユーザーを決定し、それらのユーザーの個別の権限リストに対してコンポーネント・インタフェースのセキュリティを設定してください。

注意： これらのコンポーネント・インタフェースは、スキーマおよびビジネス・サービスの作成に必要で、Find メソッドを使用するために実行時に使用されます。これらには Get および Find のアクセスのみが許可されており、PeopleSoft データベースの更新に使用することはできません。これにより、セキュリティ上の危険性が最小限に抑えられます。

PeopleSoft リリース 8.1 では、2、3 または 4 層モードでセキュリティを設定できますが、リリース 8.4 以上では、4 層モードのみです。

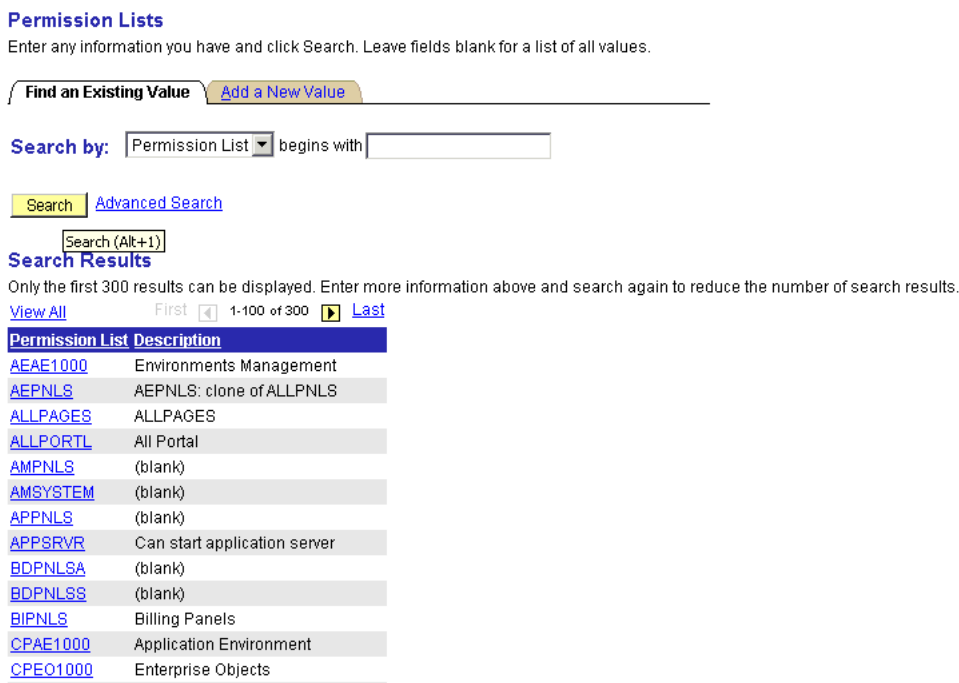
次の手順では、サポートされているすべてのモードで、サポートされている PeopleSoft の全リリースのセキュリティを構成する方法を説明します。手順で示される図には、4 層モードの PeopleSoft リリース 8.4 が反映されています。

図 A-7 PeopleSoft のセキュリティ構成



1. 図 A-7 のように、「PeopleTools」→「セキュリティ」→「ユーザー・プロファイル」→「権限/ロール」→「権限リスト」を選択します。
2. 「検索」をクリックして適切な権限リストを選択します。
図 A-8 のように、権限リスト・ペインが表示されます。

図 A-8 権限リスト・ペイン



3. 図 A-9 のように、「サインオン時間」タブの横の右向き矢印をクリックしてコンポーネント・インタフェース・タブを表示します。

図 A-9 一般、ページ、PeopleTools、プロセス、およびサインオン時間タブ



4. コンポーネント・インタフェース・タブをクリックします。
5. コンポーネント・インタフェース・リストに新しい行を追加するには、プラス記号 (+) を選択します。
6. **IWY_CI_ATTRIBUTES Component Interface** を入力または選択して「編集」をクリックします。
7. Get および Find メソッドをフル・アクセスに設定するには、「フル・アクセス (全て)」をクリックします。

8. 「OK」をクリックします。
9. IWY_CI_MESSAGES コンポーネント・インタフェースに対してステップ 5～8 を繰り返します。
10. コンポーネント・インタフェース・ウィンドウを一番下までスクロールして、「保存」をクリックします。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に付属するコンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成が終了しました。コンポーネント・インタフェースをテストするには、「コンポーネント・インタフェースのテスト」A-7 ページを参照してください。

コンポーネント・インタフェースのテスト

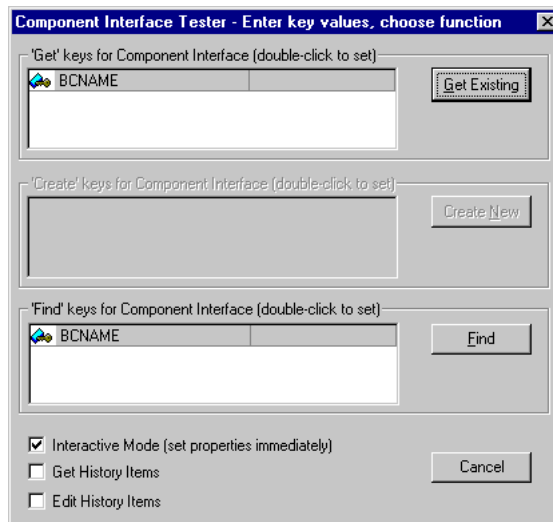
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft のそれぞれのコンポーネント・インタフェースは、使用前にテストする必要があります。

コンポーネント・インタフェースをテストする手順：

1. PeopleSoft Application Designer で、IWY_CI_ATTRIBUTES コンポーネント・インタフェースを開きます。
2. 「ツール」→「コンポーネント・インタフェースのテスト」を選択します。

図 A-10 のように、コンポーネント・インタフェースのテスト・ダイアログが表示されます。

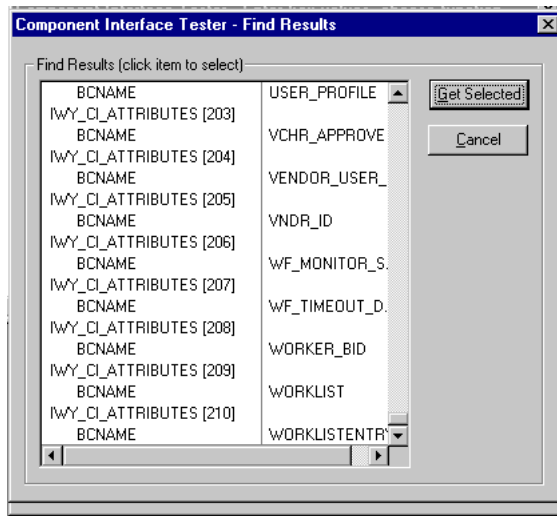
図 A-10 コンポーネント・インタフェースのテスト・ダイアログ



注意： このコンポーネント・インタフェースには Add メソッドが適用されないため、新規作成オプションは無効になっています。

3. 「検索」をクリックします。基礎となるコンポーネントのエントリが表示されます。
- 図 A-11 のように、表示されるエントリ数に制限があることを示すメッセージが表示される場合があります。これは問題ありません。

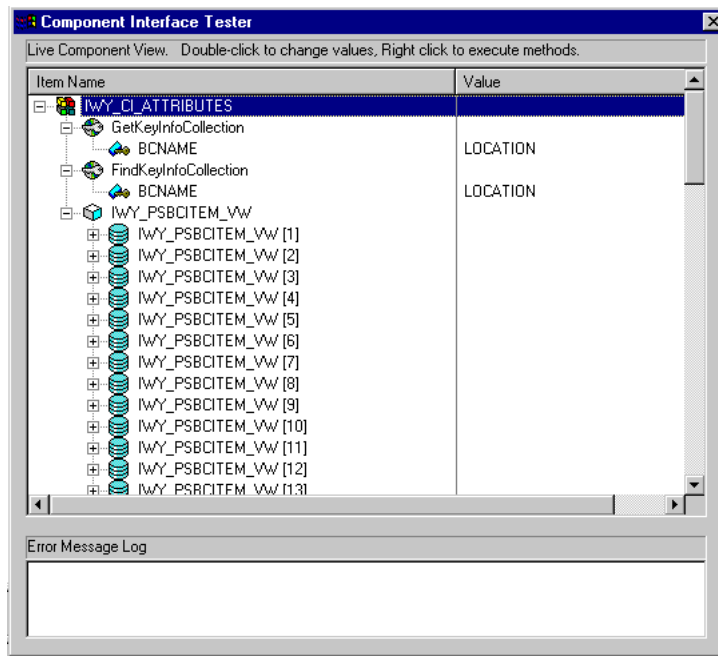
図 A-11 コンポーネント・インタフェース・テスター - 結果の検索ダイアログ



4. 結果の検索ウィンドウで対応するキーを含む 1 行を強調表示し、「選択済の取得」をクリックします。選択したキーの関連データが表示されます。

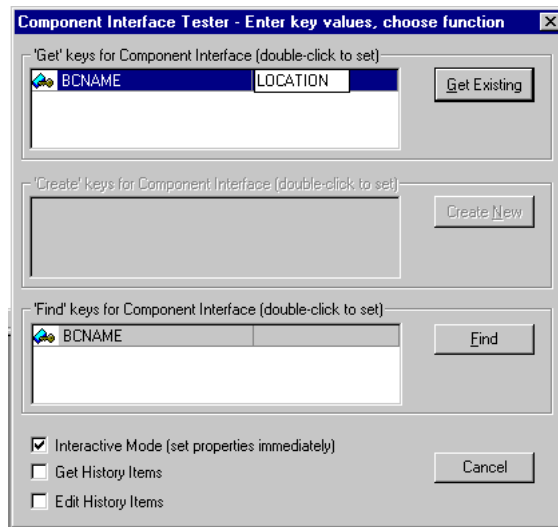
図 A-12 のようにこのウィンドウが表示されると、コンポーネント・インタフェースの Find メソッドに関するテストが正常に実行されたこととなります。

図 A-12 コンポーネント・インタフェースのテスト・ダイログ



5. 「既存を取得」をクリックします。Get メソッドの場合は、図 A-13 のように既存のキーを入力する必要があります。

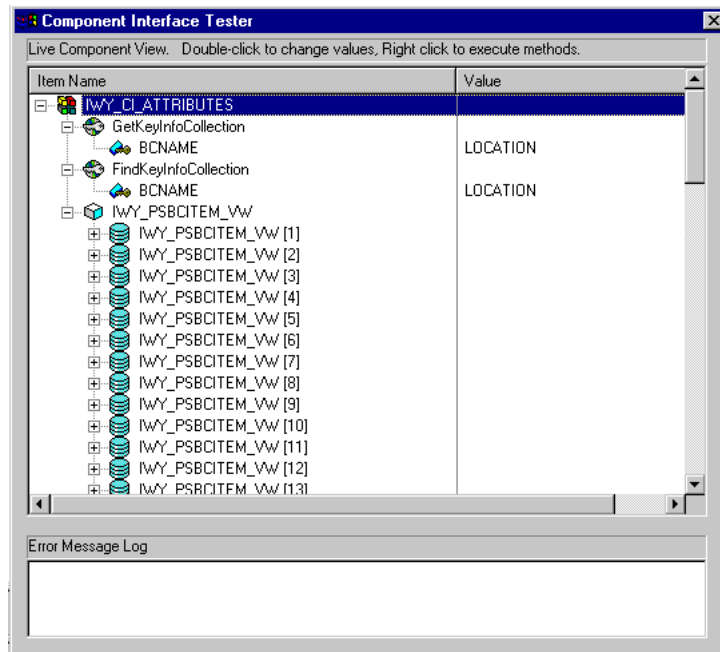
図 A-13 コンポーネント・インタフェース・テスター・ダイアログ - キー値



入力したキーの公開中のプロパティが返されます。

図 A-14 のようにこのウィンドウが表示されると、コンポーネント・インタフェースの Get メソッドに関するテストが正常に実行されたこととなります。

図 A-14 コンポーネント・インタフェース・テスター・ダイアログ - Get メソッド



6. IWY_CI_MESSAGES コンポーネント・インタフェースに対してこのプロセスを繰り返します。

コンポーネント・インタフェースのテストが終了しました。

A.2.3 Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターのインストール

TCP/IP および HTTP を使用して PeopleSoft からコンポーネントへ XML イベント・ドキュメントを送信できるようにするには、使用する PeopleSoft のリリースに必要なタイプの TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターをインストールする必要があります。

- リリース 8.4 の場合は、TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタをインストールします。詳細は、A-10 ページの「[PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタのインストール](#)」を参照してください。
- リリース 8.4 の場合は、TCP/IP および HTTP ハンドラをインストールします。詳細は、A-10 ページの「[PeopleSoft リリース 8.1 用 TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール](#)」を参照してください。

注意：リリース 8.4 以上を使用している場合は、PeopleSoft によって配布されるターゲット・コネクタを使用することが推奨されます。Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に同梱されているターゲット・コネクタはインストールしないでください。

PeopleSoft リリース 8.4 用 TCP/IP ターゲット・コネクタは、古い PeopleSoft リリース (PeopleSoft 8.1 シリーズ) から新しい PeopleSoft リリースへ移行する既存ユーザーのために提供されています。

PeopleTools バージョン 8.1 から 8.4 に移行する場合は、PeopleSoft が提供するターゲット・コネクタの使用が推奨されます。iWay からの TCP/IP ターゲット・コネクタを使用しないでください。

イベント処理に PeopleSoft のメッセージを使用しない場合は、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に同梱されている TCP および HTTP 用ターゲット・コネクタのインストール方法を説明する手順を飛ばして読み進めてください。

PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタのインストール

PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft とともにインストールされます。デフォルト・ディレクトリは、次のとおりです。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft\iwpsvent84.jar
```

PeopleSoft リリース 8.4 用 TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタのインストール手順：

1. iwpsvent84.jar から TCPIPTARGET84.class を抽出します。プラットフォームに適した任意の抽出ユーティリティを使用してください。
2. TCPIPTARGET84.class を PeopleSoft ゲートウェイ Web サーバーがあるプラットフォームに移植します。
3. TCPIPTARGET84.class を PeopleSoft サーバーのターゲット・コネクタ・ディレクトリに入れます。

例：

```
$PS_HOME/webserv/servletclasses/TCPIPTARGET84.class
```

PeopleSoft リリース 8.1 用 TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール

PeopleSoft リリース 8.1 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft とともにインストールされます。デフォルト・ディレクトリは、次のとおりです。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft\iwpsvent81.jar
```

このディレクトリがない場合は、販売代理店に問い合わせて関連するファイルのコピーを入手してください。

PeopleSoft リリース 8.1 用 TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール手順:

1. `iwpsevent81.jar` を PeopleSoft ゲートウェイ Web サーバーがあるプラットフォームに移植します。
2. `iwpsevent81.jar` を PeopleSoft Web サーバーの `servletclasses` ディレクトリに入れます。

例:

```
$PS_HOME/webserv/servletclasses/iwpsevent81.jar
```

3. 組み込みクラスのファイルを抽出します。

UNIX システムでの TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール

UNIX システムへの PeopleSoft リリース 8.1 用 TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール手順:

1. 正しい PeopleSoft の ID および権限を使用して UNIX システムにログインします。
2. PeopleSoft Web サブプレットのディレクトリにナビゲートします。このディレクトリはリリースによって異なる場合がありますが、通常は次のディレクトリです。

```
$PS_HOME/webserv/servletclasses
```

3. `jar` コマンドを発行して、PeopleSoft に必要なクラス・ファイルを抽出します。

これはサンプル・コマンドです。

```
jar -xvf /tmp/iwpsevent81.jar
```

Sun または Solaris では、次の出力が表示されます。

```
$ jar -xvf /tmp/iwpsevent81.jar
created: META-INF/
extracted: META-INF/MANIFEST.MF
extracted: psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81$Entry.class
extracted:
psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81$HandlerEntry.class
extracted:
psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81$PublicationHandler.class
extracted: psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81.class
$
```

注意: ファイルは、`psft/pt8` の下の `tcphandler` という新規ディレクトリに入ります。

A.3 PeopleTools のアップグレード

この項では、PeopleTools をアップグレードするための手順と考慮事項について説明します。

1. PeopleTools をバージョン 8.1 からバージョン 8.4 にアップグレードする場合は、A-1 ページの A.1 項「[PeopleSoft のバージョンの指定](#)」を参照してください。
2. iWay Software によって提供されているカスタム・コンポーネント・インタフェースが PeopleTools の新バージョンで使用可能なことを確認します。

旧バージョンの PeopleTools から新バージョンへと移行する場合は、PeopleSoft によってコンポーネント・インタフェースが自動的に移行されます。そうでない場合は、iWay Software によって提供されるカスタム・コンポーネント・インタフェースを再インストールする必要があります。詳細は、A-2 ページの A.2 項「[アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール](#)」を参照してください。

3. iWay Software によって提供される TCP/IP ハンドラを PeopleTools の現在の稼働バージョンにインストールする場合は、次の手順に従います。
 - a. 現在、PeopleTools バージョン 8.1 を使用していて、PeopleTools バージョン 8.4 に移行する場合は、PeopleSoft が提供する HTTP コネクタを使用することが推奨されます。詳細は、『*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド*』の付録 D「[PeopleSoft Integration Broker の使用](#)」を参照してください。
 - b. 現在、PeopleTools バージョン 8.4 と TCP/IP ハンドラを使用している場合は、PeopleSoft が提供する HTTP コネクタの使用が推奨されます。詳細は、『*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド*』の付録 D「[PeopleSoft Integration Broker の使用](#)」を参照してください。
4. PeopleSoft Integration Broker を使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft にメッセージをパブリッシュしている場合は、PeopleSoft Integration Broker の現在の動作に変更がないかどうか PeopleTools のリリース・ノートおよびユーザー・ガイドで確認してください。
5. Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft のインストール・ディレクトリ下の \lib フォルダで次の手順を実行します。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

- a. Oracle WebLogic Server が実行されている場合は、それを終了します。
 - b. 現在の psjoa.jar ファイルと Component Interface API .jar ファイルのバックアップ・コピーを作成してから、\lib フォルダからこれらのファイルを削除します。
 - c. 新しい psjoa.jar ファイルと Component Interface API .jar ファイルを \lib フォルダにコピーします。詳細は、『*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド*』の付録 A「[Component Interface APIs の生成](#)」を参照してください。
 - d. Oracle WebLogic Server を起動します。
6. アプリケーション・エクスプローラを使用して、定義されたアダプタ・ターゲットおよびチャンネルの接続パラメータを変更します。
 - a. Oracle WebLogic Server を停止します。
 - b. アプリケーション・エクスプローラを開きます。
アダプタ・ターゲットおよびチャンネルに設定されているパラメータ値は、旧バージョンの PeopleSoft サーバーおよび PeopleTools に基づいています。現バージョンの PeopleSoft サーバーおよび PeopleTools に合わせて、これらの値を変更する必要があります。
 - c. アプリケーション・エクスプローラを閉じます。
 - d. Oracle WebLogic Server を起動します。

7. 新しいサーバー用にアダプタ・ターゲットおよびチャネルを新規作成した場合は、WSDL ファイルを再度作成して、それをプロセスで使用します。これは WSDL ファイルにアダプタ・ターゲット名およびチャネル名が含まれているからです。結果として、古いターゲットおよびチャネルで作成された WSDL ファイルには新しいターゲットおよびチャネルとの互換性はありません。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成

この付録では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成方法を説明します。内容は次のとおりです。

- [B.1 項「アウトバウンドおよびインバウンド処理のための JDE.INI ファイルの変更」](#)
- [B.2 項「OneWorld イベント・リスナー」](#)
- [B.3 項「OneWorld イベント・リスナーの構成」](#)
- [B.4 項「実行時の概要」](#)

B.1 アウトバウンドおよびインバウンド処理のための JDE.INI ファイルの変更

この項では、XML コール・オブジェクト カーネル (アウトバウンドおよびインバウンド処理) 用に *JDE.INI* ファイルで行う必要がある設定について説明します。

JDE.INI ファイルは、エンタープライズ・サーバーの次のディレクトリにあります。

```
\\system\bin32
```

JDE.INI ファイルを開き、`[JDENET_KERNEL_DEF6]` および `[JDENET_KERNEL_DEF15]` セクションを次のように変更します。

```
[JDENET_KERNEL_DEF6]
krnlName=CALL OBJECT KERNEL
dispatchDLLName=XMLCallObj.dll
dispatchDLLFunction=_XMLTransactionDispatch@28
maxNumberOfProcesses=1
numberOfAutoStartProcesses=1
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF15]
krnlName=XML TRANSACTION KERNEL
dispatchDLLName=XMLTransactions.dll
dispatchDLLFunction=_XMLTransactionDispatch@28
maxNumberOfProcesses=1
numberOfAutoStartProcesses=1
```

アンダースコア () および @28 を含むパラメータは、Windows NT オペレーティング・システム専用です。その他のオペレーティング・システムの場合は、これらのパラメータを次の表の値に置き換えてください。

オペレーティング・システム	コール・オブジェクト・ディスパッチ DLLName	XML トランザクション・ディスパッチ DLLName
AS400	XMLCALLOBJ	XMLTRANS
HP9000B	libxmlcallobj.sl	libxmltransactions.lo
Sun または RS6000	libxmlcallobj.so	Libxmltransactions.so

注意：バージョン B7333(XE) の J.D. Edwards OneWorld インストールには [JDENET_KERNEL_DEF15] が含まれていません。そのため、バージョン B7333(XE) を使用する場合は、手動で *jde.ini* ファイルに追加する必要があります。それ以外の全バージョンの J.D. Edwards OneWorld インストールには、[JDENET_KERNEL_DEF15] が含まれています。

B.2 OneWorld イベント・リスナー

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld イベント・リスナーは、J.D. Edwards が承認する OneWorld ビジネス・イベントへのアクセスを提供する目的で設計されています。OneWorld イベント・リスナーは、OneWorld ビジネス関数を使用して実行される専用アプリケーションで、OneWorld アプリケーション・システムによってコールされます。

OneWorld アプリケーション・システムによって、目的のイベントのみに関するイベント情報の取得に必要な情報がイベント・リスナーに提供されます。OneWorld 環境の構成の詳細は、『*J.D. Edwards OneWorld 相互運用ガイド*』を参照してください。

OneWorld イベント・リスナーは、OneWorld アプリケーションから直接コールされ、Z ファイル・レコード識別子を受け取ります。その後、この識別子によってリクエスト・ドキュメントが生成され、処理のためにサーバーに渡されます。サーバーは、J.D. Edwards OneWorld システムからイベント情報を取得し、他のアプリケーション・システムとの統合のために、その情報を伝播します。

B.3 OneWorld イベント・リスナーの構成

OneWorld イベント・リスナーは、Oracle Fusion Middleware アプリケーション・アダプタをインストールするときに一緒にインストールされます。OneWorld イベント・リスナーでは TCP/IP および HTTP プロトコルがサポートされています。

OneWorld イベント・リスナーは、OneWorld 環境での構成に従い、特定のトランザクションに対して J.D. Edwards によって起動されます。

OneWorld イベント・リスナーに含まれるコンポーネントは次のとおりです。

- リスナー・イベント・スタブ *IWOEvent.dll* は、`\etc\jde` ディレクトリにあります。例：
`<ADAPTER_HOME>\etc\jde\iwoevent.dll`

ファイル拡張子は、使用しているオペレーティング・システムによって異なります：

- **Windows** の場合、イベント・スタブは *iwoevent.dll* です。
- **Sun Solaris** の場合、イベント・スタブは *libiwoevent.so* です。
- **HP-UX** の場合、イベント・スタブは *libiwoevent.sl* です。
- **AS/400** の場合、イベント・スタブは *iwaysav.sav* です。
- **IBM AIX** の場合、イベント・スタブは *libiwoevent.so* です。
- ?リスナー構成ファイル *iwoevent.cfg* は、ユーザーが作成する必要があります。

OneWorld Event リスナー・エグジットは、OneWorld アウトバウンド・トランザクション表のレコードのキー・フィールドを、インバウンドの Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld で処理させるために統合サーバーに渡す関数です。OneWorld イベント・リスナーは、J.D. Edwards OneWorld Enterprise Server の下にデプロイされます。OneWorld イベント・リスナーの Java クラスは *IWOEvent* (ファイル拡張子はオペレーティング・システムによって異なる) と呼ばれ、大文字と小文字が区別されます。

1. JDE エンタープライズ・サーバーの JDE 構造の下に、Outbound という名前のフォルダを作成します。例:

```
\\JDEdwards\E812\DDP\Outbound
```

2. 新しい Outbound フォルダ内に *iwoevent.dll* ファイルをコピーします。
3. *iwoevent.dll* ファイルが含まれているディレクトリを指定するために、環境変数 *IWOEVENT_HOME* を作成します。

- ?Windows の場合: システム環境変数に *IWOEVENT_HOME* を追加します。
- ?UNIX の場合: 使用する起動スクリプトに次のコマンドを追加します。

```
export IWOEVENT_HOME =/directory_name
```

4. J.D. Edwards OneWorld サーバーで、定義済の *IWOEVENT_HOME* ディレクトリに *iwoevent.cfg* ファイルを作成します。

OneWorld イベント・リスナーでイベントを正しく開始するには、関連付けられているアダプタの接続情報が必要です。この情報は *iwoevent.cfg* ファイルに指定されます。このファイルを作成して、ファイルに接続情報を追加する必要があります。OneWorld イベント・リスナーが正しく機能するには、関連付けられている統合サーバーの接続情報が必要です。この情報は *iwoevent.cfg* ファイルに指定されます。*iwoevent.cfg* ファイルは、明確に次の 3 つのセクションに分かれます。

■ 共通

構成ファイルの共通セクションには、基本の構成オプションが含まれます。現在サポートされているのはトレース・オプションのみです。

トレース・オプションを設定するには、**on** または **off** を選択します。

```
common.trace=on|off
```

on を選択するとトレースがオンに設定され、**off** を選択するとトレースがオフに設定されます。デフォルト値は **off** です。

OneWorld イベント・リスナーでは、デフォルトで TCP/IP がサポートされています。このリスナーで HTTP プロトコルをアクティブ化するには、次の行を追加します。

```
common.http=on
```

■ 別名

構成ファイルの別名セクションには、特定のサーバーにトランザクションを送信するために必要な接続情報が含まれます。Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld では、現在、構成ファイル内で 100 のエン트리 (別名) がサポートされています。

これらのエントリの別名値は次のとおりです。

```
Alias.aliasname={ipaddress|dsn}:port, trace={on|off}
```

aliasname は、接続に対して指定されたシンボリック名です。

ipaddress|dsn は、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld を含むサーバーの IP アドレスまたは DSN 名です (必須)。

port は、TCP チャネル構成で Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld に対して定義されたポートです (必須)。

`trace={on|off}` によって、特定の別名のトレースがオンに設定されます。

■ Trans

構成ファイルの `trans` セクションには、J.D. Edwards OneWorld トランザクションを特定のサーバーヘルパーティングするために必要なトランザクション情報が含まれます。

特定の J.D. Edwards OneWorld トランザクションがいずれかの別名に対して定義されていない場合、このトランザクションはすべての別名に送信されます。これらのエントリのトランザクション値は次のとおりです。

```
trans.jdeTransactionName=alias1,alias2,aliasn
```

`jdeTransactionName` は、アウトバウンド・トランザクションの JDE 定義名です。
`alias1,alias2,aliasn` は、トランザクションの送信先となる別名のリストです。

次に、接続情報を提供する `iwoevent.cfg` のエントリの例を示します。

```
common.trace=on

alias.edamcs1=172.1.1.1:3694
alias.edamcs1t=172.1.1.1:3694, trace=on
alias.edamcs2=222.2.2.2:1234

trans.JDESOOUT=edamcs1t,edamcs2
trans.JDEPOOUT=edamcs1
```

5. `iwoevent.cfg` ファイルで指定した別名を使用して、定義済の `IWOEVENT_HOME` ディレクトリの下にフォルダを作成します。例：

```
\\JDEdwards\E812\DDP\Outbound\edamcs1
```

B.3.1 AS/400 でのイベント・リスナーの構成

`iwoevent.cfg` ファイルを構成する手順：

1. `CRTDIR` コマンドを使用して、AS/400 上に J.D. Edwards OneWorld によってアクセス可能なディレクトリを作成します。

例：

```
CRTDIR DIR('/e810sys/outbound') DTAAUT(*RW)
```

2. 作成したディレクトリに `iwoevent.cfg` 構成ファイルをコピーします。

例：

```
/e810sys/outbou
```

3. `iwoevent.cfg` ファイルに指定された別名を使用してディレクトリを作成します。
4. `IWOEVENT_HOME` 環境変数を J.D. Edwards OneWorld アプリケーション・サーバーに追加します。

値には、手順 1 で指定したディレクトリへのフルパスを指定します。

例：

```
ADDENVVAR ENVVAR(IWOEVENT_HOME) VALUE('/e810sys/outbound') LEVEL(*SYS)
```

`iwoevent.cfg` 構成ファイルでトレースが有効になっている場合 (`trace=on`)、`iwoevent.log` トレース・ファイルが `IWOEVENT_HOME` ディレクトリ内に作成されます。

サンプルの `iwoevent.cfg` 構成ファイル

参考のために、次に示すサンプルの `iwoevent.cfg` 構成ファイルを使用できます。

```
common.trace=on
alias.JDE=172.30.24
```

イベント・スタブの構成

イベント・スタブを構成する手順:

1. iSeries グリーン・コンソールで、CRTLIB コマンドを使用して一時ライブラリを作成します。

例:

```
CRTLIB IWAYTEMP
```

2. CRTSAV コマンドを使用して、作成したライブラリ内にオンライン保存ファイルを作成します。

例:

```
CRTSAVF IWAYTEMP/IWAYSAV
```

3. FTP を使用して、*iwaysav.sav* ファイルをユーザーの iSeries システムにアップロードします。

例:

```
FTP YourSystemName
Login
BIN
PUT IWAYSAB.SAV IWAYTEMP/IWAYSAB
```

YourSystemName は、ユーザーの iSeries システムの名前です。

4. iSeries グリーン・コンソールで、次のコマンドを入力します。

```
RSTLIB SAVLIB (IWAYPLUGIN) DEV(*SAVF) SAVF (IWAYTEMP/IWAYSAB)
```

IWAYPLUGIN という名の新しいライブラリが作成され、その中に EVENTPLUG という名の 1 つのオブジェクトが含まれます。

注意: P0047 (Work With Data Export Controls) アプリケーションを使用して、IWAYPLUGIN/EVENTPLUG として関数ライブラリを指定する必要があります。

B.4 実行時の概要

OneWorld によって OneWorld イベント・リスナーが起動されると、リスナーは *iwoevent.cfg* (大文字/小文字の区別あり) という構成ファイルにアクセスします。構成ファイルの情報に基づき、リスナーから統合サーバーに対してイベント通知が送信されます。すべてのログ情報は、*iwoevent.log* というファイルに保存されます。*iwoevent.log* ファイルは、*iwoevent.dll* および *iwoevent.cfg* ファイルが配置されているアウトバウンド・フォルダ内に作成されます。

索引

B

batch.log ファイル, B-2
BSE 構成ページ, 2-52
BSE システム設定, 2-53
BSE システム設定の構成, 2-53
BSE 設定ウィンドウ, 2-52

D

DSN (データ・ソース名), B-3

I

「iBSE URL」 フィールド, 2-15
IP アドレス, B-3
iwoevent.cfg ファイル, B-3 ~ B-4
iwoevent.cfg ファイルの Trans セクション, B-3
iwoevent.cfg ファイルの共通セクション, B-3
iwoevent.cfg ファイルの別名セクション, B-3
iwoevent.log ファイル, B-2
IWOEvent リスナー・エグジット, B-2

J

J.D. Edwards OneWorld イベント・リスナー, B-2 ~ B-5
jde TransactionName, B-3

O

OneWorld イベント・リスナー, B-2, B-5
Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine,
1-2
Oracle Unified Method (OUM), viii

W

Web サービス
配信, 2-53
Web サービス・プロジェクト
作成, 2-14

X

XDJdeOutboundAgent, B-2

Z

Z ファイル, B-2

あ

アウトバウンド・エージェント, B-2
アウトバウンド処理, B-2
アウトバウンド・トランザクション, B-2
アクセス・メソッド, B-2
「アダプタ・ライブラリ・ディレクトリ」パラメータ,
2-52

い

イベント・リスナー, B-2 ~ B-3
インストール作業, 2-2

え

「エンコーディング」パラメータ, 2-52

お

オペレーティング・システム要件, 1-4

け

「言語」パラメータ, 2-52

こ

構成
接続, 2-29, 2-33
定義, 2-14 ~ 2-17
「構成」ノード, 2-15 ~ 2-16

さ

「サービス・プロバイダ」リスト, 2-15 ~ 2-17

し

システム設定
構成, 2-53
システム・パラメータ
アダプタ・ライブラリ・ディレクトリ, 2-52
エンコーディング, 2-52

言語, 2-52
デバッグ・レベル, 2-52
非同期プロセッサの数, 2-52
「新規構成」ダイアログ・ボックス, 2-15 ~ 2-17

せ

接続情報, B-3
接続パラメータ
 ポート, 2-52, 2-58, 2-62

そ

ソフトウェア要件, 1-4

て

データ・ソース名 (DSN), B-3
「デバッグ・レベル」パラメータ, 2-52

と

トランザクション
 保存, 2-53
トレース設定, B-3

の

ノード
 構成, 2-15, 2-16

は

ハードウェア要件, 1-2
パッケージ化されたアプリケーション・アダプタのディレクトリ構造, 2-48
パラメータ・タイプ
 システム, 2-52
 リポジトリ, 2-53

ひ

「非同期プロセッサの数」パラメータ, 2-52

へ

別名, B-3 ~ B-4

ほ

ポート, B-3
ポート・パラメータ, 2-52, 2-58, 2-62
ポート番号パラメータ, 2-15
ホスト名パラメータ, 2-15, 2-52, 2-58, 2-62

め

メタデータ
 保存, 2-53

ら

ライブラリ・ファイルのコピー, 2-47

り

リスナー, 2-29, B-2 ~ B-4
リスナー、チャンネルも参照
リスナー・エグジット, B-2
リスナー構成ファイル, B-3, B-5
「リポジトリ URL」パラメータ, 2-53
「リポジトリ・タイプ」パラメータ, 2-53
「リポジトリ・ドライバ」パラメータ, 2-53
「リポジトリ・パスワード」パラメータ, 2-53
リポジトリ・パラメータ
 URL, 2-53
 タイプ, 2-53
 ドライバ, 2-53
 パスワード, 2-53
 プーリング, 2-53
 ユーザー, 2-53
「リポジトリ・プーリング」パラメータ, 2-53
リポジトリ・プロジェクト
 作成, 2-17
リポジトリ・プロジェクトの作成, 2-17
「リポジトリ・ユーザー」パラメータ, 2-53

れ

レコード識別子, B-2